J. Rakuno Gakuen Univ., **21** (1): 133～170(1996)

農家生活の質的向上に関する研究

—日韓共同研究第2報(生活経営からみた農家生活の実態〈韓国調査〉)—

後藤郁子[1)]・崔　徳卿[2)]・森　夏節[3)]・飯村しのぶ[4)]

The Improvement of Quality of Life in Farm Household
—Joint Research in Japan and Korea (II)
The Structure of Farm Household Life and its Effect on Home Management
〈Survey in Korea〉 —

Ikuko GOTO, Choi DUCH KYUNG, Kaori MORI, Shinobu IIMURA

(June, 1996)

目　次

はじめに ……133
Ⅰ．**農家生活を支える韓国農業の概観** ……134
Ⅱ．**調査の概要** ……135
Ⅲ．**調査結果** ……136
　1．**調査対象の基本的属性** ……136
　2．**農業経営と農家主婦** ……138
　3．**家事運営と家計管理** ……147
　4．**余暇生活活動** ……155
　5．**生活の情報化** ……158
Ⅳ．**調査研究結果のまとめ** ……168
　参考文献：資料 ……169

はじめに

近年，韓国の農家・農村においては，社会情勢の変化に伴って，農業や農家生活をめぐる課題も少なくない。

また，間もなく訪れる21世紀に向けて，農家・農村の特質を生かし，生産と生活をとおして生き甲斐や，地域に根ざした文化，充実感のある新しい豊かさ創造への取り組みが求められている。

従って生活重視の農業経営と共に，農家生活経営の果たす役割はきわめて重要である。

このため，生活経営からみた農家生活の現状を把握し，課題を明らかにすると共に，今後の改善に役立てることを目的とし，「農家生活の質的向上に関する研究」の一環として本調査を実施した。

---

1) 北海道文理科短期大学　教養学科　生活経営学研究室
Department of Culture (Home Management), Hokkaido College of Arts and Sciences, EBeTsu, Hokkaido, 069, Japan
2) 国立安城産業大学校　生活管理学科
Department of Home Management, Anseong National University, 67, SEOGJEONG-DONG, ANSEONG-EUB, ANSEONG-GUN, KYEONGGI-DO, KOREA
3) 北海道文理科短期大学　経営情報学科　ＯＡシステム研究室
Department of Information Management (OA System), Hokkaido College of Arts and Sciences, EBeTsu, Hokkaido, 069, Japan
4) 藤女子大学　人間生活学部　人間生活学科
Department of Human Ecology, Fuji Women's College, IShiKaRi, Hokkaido, 061-32, Japan
本稿は，1995年度北海道文理科短期大学共同研究「農家生活の質的向上に関する研究」の成果の一部である。

なお，本調査は，20世紀における経済発展過程が類似する隣国，韓国の農家（京畿道安城郡）の中核として，農業・農家生活を担う30才代～40才代の主婦を対象として実施した。

I.　農家生活を支える韓国安城郡農業の概観

最初に，韓国（安城郡）の農家が営む農業について概観する。

大韓民国は9道からなり，本調査研究対象となった安城郡は韓国北東部の京畿道に属している。(図Ⅰ－2参照)

面積・人口構成。　面積は表Ⅰ－1の通りであり，総農家個数は（15,304戸），郡総戸数の約43％を占める農業地帯である。

図Ⅰ－1　大韓民國全圖

表Ⅰ-1　面積・人口・戸数(安城郡)

区分	面積・人口・家口							
	面積	人口			人口密度	家口		
邑面別	(㎡)	'86 (名)	'91 (名)	増加率 (%)	(人/㎡)	計	農家	非農家
計	552.88	122.273	177,979	△0.71	213.4	29,924	15,304	14,620
安城邑	14.16	32,758	36,078	2.00	2,547.9	9,665	991	8,674
實蓋面	54.62	8,505	8,809	0.94	161.3	2,206	1,527	679
金光面	75.42	6,230	5,726	△1.54	75.9	1,425	1,124	301
瑞雲面	40.12	5,926	5,277	△2.26	131.5	1,334	1,127	207
薇陽面	34.17	8.134	6,899	△3.22	201.9	1,764	1,434	330
大德面	32.81	10,653	1,974	2.38	364.9	2.434	1,094	1,340
陽城面	53.40	6,515	5,572	△3.02	104.3	1,497	1,056	441
孔道面	31.97	11,954	11,467	△0.36	358.7	2,841	1,603	1,238
元谷面	37.61	3,967	3,559	△2.12	94.6	925	733	192
一竹面	54.68	9,847	8,911	△1.98	163.0	2,242	1,921	321
二竹面	57.00	8,363	7,478	△2.20	131.1	1,941	1,248	693
三竹面	39.26	6,457	3,278	△6.15	98.9	1,022	882	140
古三面	27.66	2,964	2,351	△4.14	85.0	628	564	64

(資料) 1990年世界農業センサス

また農業人口は，全国農業人口の14.8％を占めている。特に酪農，肥肉牛は全国郡の中で2位（飼育頭数)。

名産の（梨）は韓国の輸出梨の約40％を占めている。

図Ⅰ－2　安城郡行政地圖

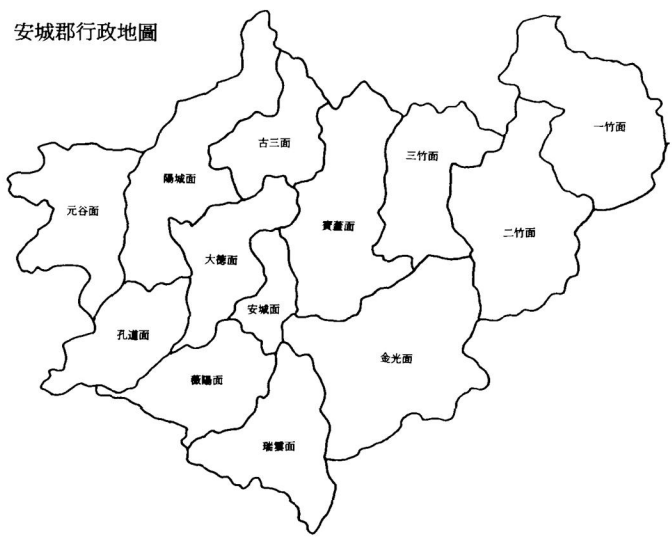


表 I-2　気　　象

気温 平均	気温 最低	気温 最高	降水量	日照時数	無霜日数	備　考
℃ 12.0	6.1	18.1	mm/年 1,223	時間/日 5.8	日/年 177	極低温：−25.0℃ 極高温：38.3℃

初霜：10.16　最期霜　4.19　　初氷：10.28　最期氷　4.11
初雪：11.16　最期雪　3.20　　(資料)安城郡地域農業開発センター(1994年)

表 I-3　耕地面積

計	畓	田	戸當耕地面積
18,694ha (100%)	12,510 (68)	6,184 (32)	1.2ha 畓0.8 田0.4

※畓：耕地整理85%，水利安全85%
(資料) 安城郡地域農業開発センター(1994年)

表 I-4　農機械保有

耕耘機	トラクタ	移秧機	コンバイン
8,498臺	1,199	4,153	1,173

※移秧，収穫機械化99%
(資料) 安城郡地域農業開発センター

表 I-5　果　　樹

区分	なし	ぶどう	リンゴ	もも	その他
面積	439.5ha	301.72	278.3	111	3.7
農家数	529戸	542	276	341	376

(資料) 安城郡地域農業開発センター

表 I-6　家畜飼育

区分	韓(肉)牛	乳牛	養豚	養鶏
飼育頭数	34.8千頭	12.7	108.0	1,468.6千首
農家数	3,190戸	632	576	293

(資料) 安城郡地域農業開発センター

II.　調査の概要

1.　調査農家の選定

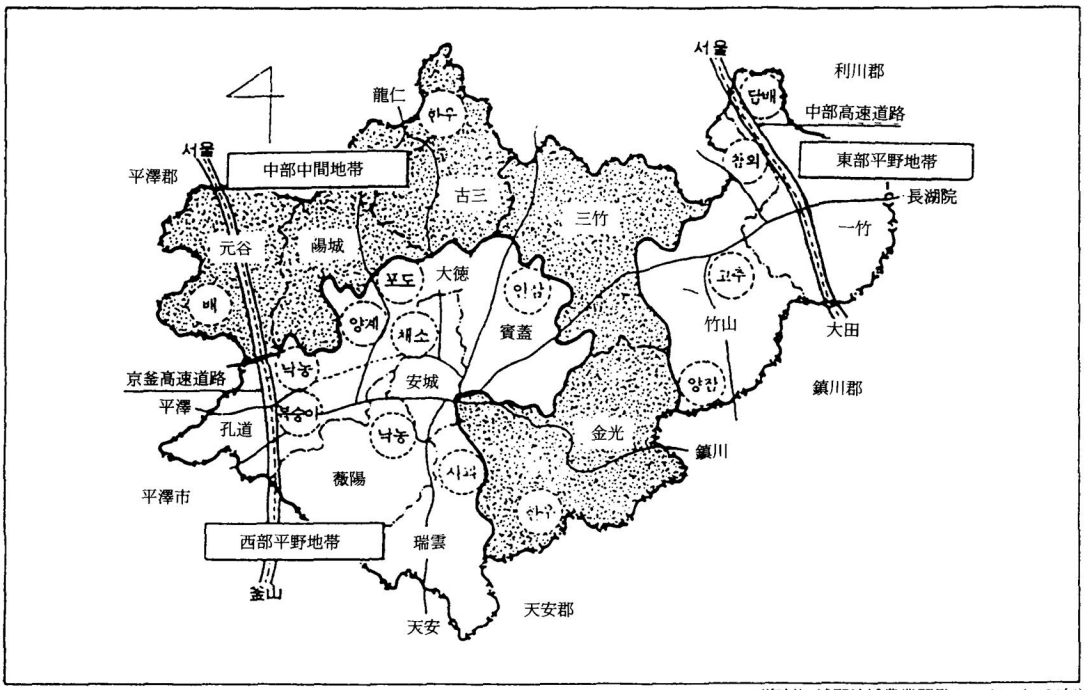
来るべき21世紀にむけて，豊かさの実感できる韓国農業の実現には，20才代を終えて中堅として経営と生活を担う，30才代から40才代の農家主婦の役割は極めて大きい。

このため韓国（安城郡）農家の稲作専業，稲作副業，酪農，果樹の4経営形態の30才代から40才代の主婦260人を対象として，アンケート調査を実施した。

表 II-1　調査対象農家

項目	経営形態 稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	合計
調査数	65	65	65	65	260

図 II-3　地域概況図



(資料) 城郡地域農業開発センター(1994年)

2. 調査対象地域の概要

(1)調査対象地域は図II－3に示すとおり，西部平野地帯を中心に中部中間地帯，東部平野地帯に広がる農業地帯で，稲作，果樹，家畜，を中心に農業地帯が拡がっている。

生活上の特徴としては，首都圏に近い地理的特性から，全般的生活水準や意識水準は高いが，文化および社会福祉施設の不足で，ソウル圏と農家生活との差が大きい。

従って農家生活の質的向上にかかわる課題が大きい。

3. 調査事項

農家の実態を把握するために調査した主な事項は次のとおりである。

(1)調査対象の基本的属性
(2)農業経営と農家主婦
(3)家事運営と家計管理
(4)余暇生活活動
(5)生活の情報化

なお調査の項目は2～3の項目を除き，第1報で述べた北海道調査に準じている。

4. 調査方法

(1)調査時期……1995年9月～11月
(2)調査方法……個別訪問による。
有効回答票数…187
回収率…71.9％

III　調査結果

1. 調査対象者の基本的属性

(1) 年齢構成

調査対象農家の主婦の年齢構成を5歳ごとに区切ってみると表1－1のようになった。30代後半の年齢層が全体の53.5％と一番多く，各経営形態の平均年齢も30代後半のウエイトが高く，全体の平均年齢は37.4歳であった。

表1-1　年齢構成　(人)

年代	経営形態 稲作 専業(%)		稲作 複合(%)		酪農 (%)		果樹 (%)		計 (%)	
30～34	14	26.9	7	13.7	15	28.8	6	18.8	42	22.5
35～39	25	48.1	32	62.7	24	46.2	19	59.4	100	53.5
40～44	11	21.2	8	15.7	9	17.3	6	18.8	34	18.2
45～49	2	3.8	4	7.8	4	7.7	1	3.1	11	5.9
N.A.	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
平均	37.4歳		38.1歳		37.4歳		36.7歳		37.4歳	

表1-2　結婚経過年数　(人)

結婚年数	経営形態 稲作 専業(%)		稲作 複合(%)		酪農 (%)		果樹 (%)		計 (%)	
1～5	3	5.8	2	3.9	4	7.7	1	3.1	10	5.3
6～10	15	28.8	11	21.6	13	25.0	10	31.3	49	26.2
11～20	32	61.5	36	70.6	32	61.5	21	65.6	121	64.7
21以上	2	3.8	2	3.9	3	5.8	0	0.0	7	3.7
N.A.	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
平均	12.8年		12.8年		12.5年		12.5年		12.7年	

(2) 結婚経過年数

表1－2から結婚後の経過年数を見ると全体の64.7％が11年から20年であり，どの経営形態も平均ほぼ12年であった。このことから，主婦として10年以上経過しているベテランの主婦が調査対象と言えよう。

(3) 結婚前の職業

表1－3から，全体として結婚前に「勤め人」であった人が一番多く51.3％であり，「農業」に従事していた人は27.3％であった。

「勤め人」の割合は，一番多い稲作専業農家で53.8％，一番少ない稲作専業農家でも49.0％と，どの経営形態でも50％前後であった。また，「農業」に従事していた人の割合は果樹農家が一番低く2割程度(21.9％)であったが，他の経営形態ではほぼ3割であった(27.5～28.8％)。このような傾向は中堅農家主婦の半数が，他の職業で経験した広い視野を持っていると言える。

表1-3　結婚前の職業　(人)

	経営形態 稲作専業(%)		稲作複合(%)		酪農(%)		果樹(%)		全体(%)	
農業	15	28.8	14	27.5	15	28.8	7	21.9	51	27.3
漁業	0	0.0	0	0.0	1	1.9	0	0.0	1	0.5
勤め人	28	53.8	25	49.0	26	50.0	17	53.1	96	51.3
その他	4	7.7	7	13.7	5	9.6	3	9.4	19	10.2
なし	5	9.6	5	9.8	5	9.6	5	15.6	20	10.7
N.A.	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
55	52		51		52		32		187	

(4) 実家の職業

実家の職業を表1－4によってみると，全体の6割(57.8％)が「農業」で占められており，続いて「勤め人」(17.1％)となっている。経営形態別には，全形態を通して「農業」の割合が高く，特に稲作専業農家で63.5％，

稲作複合農家で60.8％と高いが，一番低い果樹農家でも50.0％であった。このことは，結婚前の職業が「農業」の人は少ないが，農業従事者の夫と結婚することによって農業後継者となっていることがわかる。

それ以外の職業では，約2割(20.3％)が「商業」であり，「勤め人」の割合(17.1％)よりも高いという特徴が見られる。

表1-4　実家の職業　(人)

	経営形態								全体(%)	
	稲作専業(%)		稲作複合(%)		酪農(%)		果樹(%)			
農業	33	63.5	31	60.8	28	53.8	16	50.0	108	57.8
漁業	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.1	1	0.5
商業	11	21.2	6	11.8	13	25.0	8	25.0	38	20.3
勤め人	6	11.5	10	19.6	9	17.3	7	21.9	32	17.1
その他	2	3.8	3	5.9	2	3.8	0	0.0	7	3.7
N.A.	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
計	52		51		52		32		187	

(5)　家族構成

1)家族形態

対象者の家族形態は表1－5のようになった。表1－5より全体を「核家族」注1)，「拡大家族」注2)，「その他」にわけて見ると，「核家族」(46.5％)と「拡大家族」(49.8％)とがほぼ半々であった（図1－1参照)。「拡大家族」では「夫婦＋子供＋両親」(19.8％)と「夫婦＋子供＋母親」(16.6％)が多く，「核家族」では「夫婦＋子供」(41.2％)が多数を占めているが，5.3％10世帯が「夫婦のみ」であった。

表1-5　家族形態　(人)

	経営形態								計	
	稲作				酪農		果樹			
家族構成	専業(%)		複合(%)		(%)		(%)		(%)	
夫婦	5	9.6	3	5.9	2	3.8	0	0.0	10	5.3
夫婦＋子供	21	40.4	14	27.5	27	51.9	15	46.9	77	41.2
夫婦＋両親	1	1.9	3	5.9	0	0.0	1	3.1	5	2.7
夫婦＋父親	0	0.0	4	7.8	1	1.9	1	3.1	6	3.2
夫婦＋母親	1	1.9	1	2.0	2	3.8	0	0.0	4	2.1
夫婦＋子供＋両親	12	23.1	11	21.6	9	17.3	5	15.6	37	19.8
夫婦＋子供＋父親	0	0.0	2	3.9	1	1.9	1	3.1	4	2.1
夫婦＋子供＋母親	9	17.3	9	17.6	7	13.5	6	18.8	31	16.6
夫婦＋子供＋父親＋他の人	2	3.8	0	0.0	1	1.9	0	0.0	3	1.6
夫婦＋子供＋母親＋他の人	1	1.9	0	0.0	2	3.8	0	0.0	3	1.6
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
N.A.	0	0.0	4	7.8	0	0.0	3	9.4	7	3.7
計	52		51		52		32		187	

図1-1　家族形態割合

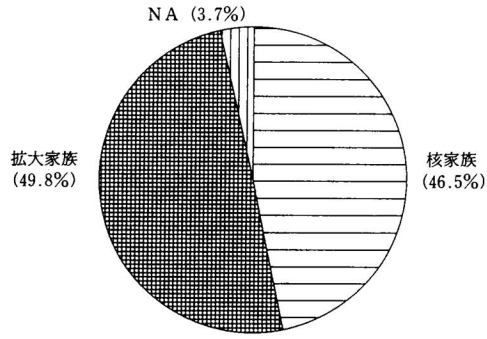


表1-6　家族人数　(人)

	経営形態								計	
	稲作				酪農		果樹			
家族構成人数	専業(%)		複合(%)		(%)		(%)		(%)	
2人	2	3.8	1	2.0	0	0.0	0	0.0	3	1.6
3人	0	0.0	1	2.0	2	3.8	0	0.0	3	1.6
4人	15	28.8	4	7.8	4	7.7	1	3.1	24	12.8
5人	11	21.2	14	27.5	25	48.1	13	40.6	63	33.7
6人	18	34.6	11	21.6	5	9.6	12	37.5	46	24.6
7人	4	7.7	14	27.5	11	21.2	5	15.6	34	18.2
8人	1	1.9	5	9.8	3	5.8	0	0.0	9	4.8
9人	0	0.0	1	2.0	2	3.8	1	3.1	4	2.1
10人以上	1	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
N.A.	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	52		51		52		32		187	

2)家族人数

一世帯あたりの家族人数は，5人(33.7％)が最も多く，次いで6人(24.6％)であり，両者で全体の6割(58.3％)を占めていることが表1－6からわかる。全体の平均家族数注3)は5.7人であった。

(6)　寝たきりの病人について

家族の中の寝たきり病人については，「いる」と答えたものが1割程度に過ぎず(10.8％)，ほとんどの家族は「い

注1）「核家族」とは夫婦とその未婚の子供によって構成される家族。
注2）「拡大家族」とは2人以上の子供が，結婚しても親の家族と生活を共にし，同世代の夫婦2組以上から構成される家族のこと。又は，子供1人が結婚して親の家族と生活を共にし，祖父母，父母，子，孫と縦の系列からなる家族。
注3）平均家族数の計算において「10人以上」と回答のあった（1件）家族人数，10人として計算した。

表 1-7　寝たきり病人の状況　　(人)

	経営形態								計	
	稲作				酪農		果樹			
	専業(%)		複合(%)		(%)		(%)		(%)	
いる	3	5.8	8	16.3	4	7.7	5	15.6	20	10.8
いない	49	94.2	41	83.7	48	92.3	27	84.4	165	89.2
N.A.	0	0.0	2	4.1	0	0.0	0	0.0	2	1.1
計	52		49		52		32		185	

ない」(89.2％)であった(表1－7)。

2.　農業経営と農家主婦

(1)経営形態別にみた耕地面積

調査対象とした経営形態別農家の耕地面積は，表2－1の通りである。

稲作専業農家では，平均2.76 haの「水田」の他に「普通畑」を持った農家が7割（71.2％）もあり，その平均面積は0.41 haである。さらに「牧草地」や「樹園地」を所有する農家も1戸あった。

稲作複合農家では，9割以上（92.2％）が「普通畑」を所有し，その平均面積は1.55 haであり，「水田」も約8割(80.4％)の農家が所有し，その平均面積は1.50 haである。

また稲作複合農家の3割近く（29.4％）は，「牧草地」を所有している。

酪農家で「牧草地」を所有している農家は，2割強(23.1％）しかなく，むしろ「水田」を8割（80.8％），「普通畑」を7割近く（67.3％）が所有しており，北海道における大規模酪農とは大きく異なっている。

果樹農家では，約8割（84.4％）が「樹園地」を所有しているものの，約7割（71.9％）の農家が「水田」を所有している。

以上を第1報による，北海道農家との比較でみると，耕地面積，経営面積共に北海道の規模は大きく，例えば，稲作専業農家の「水田」耕地面積が14.3 haと韓国の規模の5.18倍，稲作複合農家においては9.2 haで5.9倍となっている。

また酪農についてみると，牧草地は韓国の0.3 haに対し北海道57.4 haと極めて広大な規模の酪農が行なわれている。

(2)経営形態別にみた作付作物・家畜

表2－2によって，経営形態別作付作物および家畜の種類をみると，稲作専業農家では「水稲」が46戸（88.5％），つづいて「露地野菜」(32.7％)，「いも類」と「施設野菜」(10.2％）であり，「麦雑穀」・「施設花」の他，肉牛・乳牛，肉豚を飼育している農家もわづかではあるがみられた。

酪農家では，6割近く（59.6％）の農家で「水稲」を作付けしており，「乳牛」や「肉牛」を飼育している農家は4割程度である。

果樹農家では，「果樹」栽培が6割強（62.5％）を占めているが，約半数の果樹農家で「水稲」（53.1％）の作付けもおこなわれている。

以上経営形態別に作付作物および家畜についてみると，韓国農家の場合は水稲を中心にして，小規模酪農を含めた複合的な農業が行なわれているといえよう。

本調査の対象となった韓国中部の首都圏や南部の平野地帯は土地が狭く，従って農家の経営規模も小さい。

こうした中にあって，「稲作」は，気候風土に適し，韓国古来の農作物として育まれてきた。従って，農家の人々の「米」に対する愛着は，一層であると共に，自家用は勿論，親戚，兄弟への贈答，自給食料としても重要な作物であり，どの農家においても作付けされ，高品質の「韓国米」が生産されている。

また酪農については，土地が狭く，対象地帯は首都圏のため地価も高い。そのため牧草は，輸入に依存し，粗飼料は稲わら，トーモロコシサイレージによるなど，その割合が少ない。そのため，「牛」の稼働年数が短いなどの課題がある。

また，経済の高度成長期後，国民の食生活の洋風化ももたらされ，肉類の需要も伸展しており，そうした中での畜産上課題もあげられている。

(3)農業粗収入

昨年の農業粗収入について質問した結果は，表2－3のとおりである。

全体では，年間100万円未満が3割（30.5％）と最も多く，つづいて200万円以上が2割(25.1％)，この両者で半数以上を占めている。

経営形態別にみると，稲作専業農家では，200万円未満が最も多く，つづいて100万円未満と300万円未満が同数，残りは500万円未満であり，500万円を越える農家はない。

稲作複合農家では，100万円未満が最も多いが，200万円未満とほぼ同数であり，約8割近くが300万円未満であった。

一方800万円を越える農家も2例みられた。

酪農家では，100万円未満の農家が4割以上と最も多

い。

果樹農家では，300万円未満の農家3割以上と多く，これを中心に300万円以上と300万円以下にほぼ等しく分布している。

(4)経営組織

経営組織については，表2－4のとおりである。全体の8割以上（88.2％），9割近くが個人経営であり，先にみた経営規模が小さい農家が多いことからすれば当然のことかもしれない。

農業法人組織，協業組織および農作業の共同化は1～3例しかみられない。

経営形態別にみると，稲作複合農家では，個人経営が9割以上と最も多く，逆に果樹農家では個人経営は相対的には少なく，それに対して協業組織や農作業の共同化が他よりも多くなっている。

今回，アンケート調査対象となった農家は，先進的農家が多いので，農村に残り農業に取り組む若い農業者の中には，特に果樹農家などに，集団化や共同化など新しい取り組みへの芽生えがみられるといえよう。農作業の共同化は，酪農家においても若干みられた。

(5)主婦が従事する農作業及び農業経営

農業経営における主婦の参加状況およびその役割については，1）生産活動への参加，2）農作業・農業経営への従事内容，3）農繁期・平常期・農閑期にみた労働時間構造の点からとらえた結果，各々次の様になった。

1）農業生産活動における基幹労働力の分担状況

農業生産活動における労働力の分担状況は，表2－5にみるように，全体では約8割近くが夫婦ともに基幹労働として従事している。

夫のみ基幹労働の農家は，全体では1割程度，妻のみ基幹労働である場合は，果樹農家において1例だけみられた。

妻が家事に専念する形は9例（4.8％）と少ない。

以上の結果を第1報における北海道の実態と比較してみると，全体平均では（92.2％）にのぼる北海道の割合より（14.1ポイント）低いものの，韓国においても（78.1％）と約8割の主婦が夫と共に農業生活の基幹労働力として，役割を担っている。

各経営形態中，その割合が最も高かったのは北海道と同じく果樹農家で，その割合は87.5％であった。

2）農作業・農業経営への従事内容

前項で対象農家の主婦達が，各々の農業経営において，農業労働のなくてはならない担い手であることが判った。

次に，主婦達が従事する農業労働の内容はどのようなものであろうか。

①主婦が従事する農作業

主婦が従事する農作業の状況については，多岐に亘る

表2-1　経営形態別耕地面積

	経営形態							
	稲作専用		稲作複合		酪農		果樹	
	戸数	平均ha	戸数	平均ha	戸数	平均ha	戸数	平均ha
1．水田	52	2.76	41	1.50	42	1.08	23	0.86
2．普通畑	37	0.41	47	1.55	35	0.58	13	0.80
3．牧草地	1	0.01	15	0.26	12	0.30	4	0.17
4．樹園地	1	0.01	0	0.00	1	0.01	27	0.91
5．その他	0	0.00	5	0.34	5	0.02	2	0.02
計	52		51		52		32	

表2-2　経営形態別にみた作付作目・家畜

	経営形態							
	稲作専用		稲作複合		酪農		果樹	
	戸数	平均ha	戸数	平均ha	戸数	平均ha	戸数	平均ha
水稲 (ha)	46	2.45	35	1.04	31	0.89	17	0.78
麦雑穀 (ha)	6	0.02	6	0.04	2	0.01	1	0.01
いも類 (ha)	10	0.02	10	0.02	5	0.01	0	0.00
露地野菜 (ha)	17	0.12	10	0.07	6	0.02	1	0.01
施設野菜 (ha)	10	0.06	21	0.25	11	0.13	2	0.03
施設花 (㎡)	5	0.07	19	0.29	5	0.03	2	0.01
工作物 (ha)	0	0.00	5	0.09	0	0.00	1	0.01
果樹 (ha)	0	0.00	0	0.00	0	0.00	20	0.68
乳牛成牛 (頭)	3	0.94	17	8.77	23	14.79	2	0.82
乳牛育成 (頭)	1	0.15	16	6.43	20	12.27	4	4.12
肉牛ホルスタイン (頭)	5	1.97	9	2.83	23	30.33	3	1.50
肉牛専用 (頭)	4	0.81	12	7.02	10	3.27	6	3.22
肉豚 (頭)	3	1.40	0	0.00	9	9.25	2	3.44
繁殖豚 (頭)	1	0.40	1	0.04	8	1.14	1	0.03
鶏 (羽)	2	0.08	1	0.10	4	0.14	1	0.03
その他	6	0.43	8	1.43	8	4.02	3	0.44
計	52		51		52		32	

表2-3　農業粗収入　　単位：戸，(　)は％

	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
100万円未満	13 (25.0)	16 (31.4)	23 (44.2)	5 (15.6)	57 (30.5)
101-200万円	19 (36.5)	15 (29.4)	8 (15.4)	5 (15.6)	47 (25.1)
201-300万円	13 (25.0)	9 (17.6)	7 (13.5)	11 (34.4)	40 (21.4)
301-500万円	7 (13.5)	5 (9.8)	7 (13.5)	6 (18.8)	25 (13.4)
501-700万円	0 (0.0)	3 (5.9)	4 (7.7)	4 (12.5)	11 (5.9)
701-800万円	0 (0.0)	1 (2.0)	3 (5.8)	1 (3.1)	5 (2.7)
800万円以上	0 (0.0)	2 (3.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.1)
計	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)

表 2-4　経営組織　単位：戸,（ ）は%

	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
個人経営	46 (88.5)	48 (94.1)	46 (88.5)	25 (78.1)	165 (88.2)
農業法人組織	3 (5.8)	0 (0.0)	1 (1.9)	0 (0.0)	4 (2.1)
協業組織	1 (1.9)	1 (2.0)	1 (1.9)	3 (9.4)	6 (3.2)
農作業の共同化	1 (1.9)	0 (0.0)	3 (5.8)	2 (6.3)	6 (3.2)
その他	1 (1.9)	2 (3.9)	1 (1.9)	2 (6.3)	6 (3.2)
計	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)

表 2-5　農業生産活動の分担状況　単位：戸,（ ）は%

	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
夫婦とも基幹労働	37 (71.2)	42 (82.4)	39 (75.0)	28 (87.5)	146 (78.1)
夫のみ基幹労働	6 (11.5)	2 (3.9)	9 (17.3)	2 (6.3)	19 (10.2)
妻のみ基幹労働	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.1)	1 (0.5)
妻は家事に専念	4 (7.7)	2 (3.9)	3 (5.8)	0 (0.0)	9 (4.8)
その他	5 (9.6)	5 (9.8)	1 (1.9)	1 (3.1)	12 (6.4)
計	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)

表 2-6　農作業の従事内容-上位10項目　単位：人,（ ）は%

経営形態							
稲作専業		稲作複合		酪農		果樹	
田植え	25(48.1)	畜舎清掃	28(54.9)	畜舎清掃	35(67.3)	摘心・摘花	20(62.5)
播種	24(46.2)	給餌	27(52.9)	給餌	34(65.4)	収穫	20(62.5)
収穫	23(44.2)	播種	23(45.1)	分娩世話	21(40.4)	選別・荷造	18(56.3)
中耕	22(42.3)	中耕	23(45.1)	育苗	19(36.5)	出荷	13(40.6)
施肥	15(28.8)	収穫	22(43.1)	中耕	19(36.5)	播種	12(37.5)
灌水	15(28.8)	田植え	21(41.2)	播種	16(30.8)	給餌	11(34.4)
育苗	14(26.9)	防除	18(35.3)	搾乳	15(28.8)	剪定	10(31.3)
防除	13(25.0)	搾乳	18(35.3)	防除	13(25.0)	畜舎清掃	8(25.0)
除草	12(23.1)	分娩世話	15(29.4)	田植え	11(21.2)	販売	6(18.8)
水管理	12(23.1)	除草	14(27.5)	除草	11(21.2)		
選別・荷造り	12(23.1)						

※複数回答

表 2-7　農業経営の従事内容　単位：人,（ ）は%

	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
作目・品種決定	13 (25.0)	12 (23.5)	8 (15.4)	8 (25.0)	41 (21.9)
作付・作業計画	11 (21.2)	19 (37.3)	18 (34.6)	15 (46.9)	63 (33.7)
農業機械・施設等の改善計画	6 (11.5)	11 (21.6)	10 (19.2)	7 (21.9)	34 (18.2)
販売・出荷計画	9 (17.3)	10 (19.6)	8 (15.4)	13 (40.6)	40 (21.4)
経営簿の記帳	1 (1.9)	7 (13.7)	10 (19.2)	7 (21.9)	25 (13.4)
農作業日誌	8 (15.4)	7 (13.7)	8 (15.4)	1 (3.1)	24 (12.8)
青色申告	26 (50.0)	28 (54.9)	28 (53.8)	16 (50.0)	98 (52.4)
農業収入の管理	17 (32.7)	20 (39.2)	18 (34.6)	10 (31.3)	65 (34.8)
農業経営費管理	9 (17.3)	14 (27.5)	14 (26.9)	8 (25.0)	45 (24.1)
経営方針の決定	8 (15.4)	7 (13.7)	5 (9.6)	4 (12.5)	24 (12.8)
その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
計	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)

※複数回答

内容のうち各々10位までの作業内容をあげると表2－6のようになった。

経営形態別にみると，稲作専業農家においては，田植え，育苗，播種から始まって，水稲の管理作業，出荷に至るまでの稲作作業にかかわっている。

稲作副業農家に於いては，稲作と共に，家畜の飼育に関する作業が各々5割を占め上位に上っているのが特徴的である。

酪農においては，家畜の飼育を中心に稲作作業も3割以上（36.5％）みられ，年間を通しての多忙さがうかがわれる。

果樹農家においては，商品価値に留意し，細心の注意を必要とする「摘心・摘花」「選別・荷造り」「販売」が上位10項目に上がると共に，家畜の飼育作業も加わっている。

②主婦が従事する農業経営内容

農作業のみならず，農業経営への参画が農家生活近代化の課題となっているが，調査対象農家の主婦達がかかわる経営活動内容は次の通りである。

表2－7によって参加状況をみると，全体として過半数（52.4％）の主婦が「青色申告」を担当している。

このことは，北海道調査の（23.1％）を大きく上回る特徴といえる。続いて「農業収入の管理」（34.8％），「作付・作業計画」（33.7％）と，農業経営への重要項目への参加がめだっている。

経営形態別には，これらの特徴は稲作複合農家にめだち，果樹農家では全体平均を下回るものの（50.0％）の主婦が「青色申告」をあげている。

続いて「作付・作業管理」（46.9％），「販売・出荷計画」（40.6％）と，経営の重要項目に参画している。他の経営も各々同様の傾向を示した。

3）農繁期・平常期・農閑期別にみた労働時間

1日24時間の生活時間における労働は，職業労働（生産労働）と家事労働によって構成される。

ここでは，農業生産労働と家事労働の担い手として働く主婦の労働時間を，農作業の繁忙記・平常期・農閑期の三つの時期についてたづねた。

①農作業時間について

a．平均農作業時間

時期別にみた1人1日平均労働時間は表2－8のようになった。

当然のこととはいえ，主婦の従事する農作業時間は，農作業の繁閑による違いがはっきりと現われている。

全体平均では，農繁期（7時間48分）に比較し，平常期は約3時間短縮し，農閑期に於いては5時間45分短縮している。

この傾向は，北海道農家に於いても同様に現われている。ただ時間長さにおいては，北海道の対象農家平均時間は非常に長く（10時間47分）となっている。この相似の理由は今回の調査では明らかではない。

経営形態別には，農繁期においても各々（8時間）台を示している中で，酪農家のみが（6時間21分）と短い反面，農閑期の時間が他経営形態農家に比較し1時間～2時間長い時間となっているのは，本研究の第1報によって示した北海道の酪農家と同様の傾向であり，家畜飼育管理という経営内容の特徴によるものといえよう。

b．最長・最短農作業時間

（a）最長農作業時間

表2－9によって最長農作業時間をみると，農繁期の1人1日平均時間は16時間30分にも及んでおり，最も長い時間に亘っているのは稲作複合の20時間である。続いて稲作専業が18時間と長く，この原因は多種類に亘る作付作物の影響によるものであろうか。

平常期については，「専業」「複合」の稲作農家が2形態共10時間以上で，酪農家は9時間となっている。

農閑期に於いては，果樹の8時間を除いては10時間以上で，稲作複合は平均時間を上回る18時間の長さとなっている。

（b）次に最短時間の全体平均は，各期別とも1時間台となっている中で農繁期の稲作専業農家・果樹農家は各々3時間及び2時間の長さである。

また，農閑期は全農家とも1時間である。

②家事作業時間について

a．平均家事作業時間について（1人1日）

表2－10によって，農作業の時期別に家事作業時間をみると，農繁期3時間47分，平常期4時間13分，農閑期4時間23分となり，農繁期に於いても3時間47分の時間が確保されており，北海道の農繁期2時間31分，平常期3時間6分，農閑期3時間49分と比較すると各々長い時間となっている。

経営形態別には，酪農家が各期を通して長い時間となっている。

果樹農家は農閑期が最も短い2時間23分となっているのは，どのような原因による結果であろうか。

b．最長・最短家事時間

表2－11によって農作業の時期別に，平均最長家事時間をみると，農繁期11時間30分，平常期，農閑期共に10時間45分である。

また最短時間は各々1時間台と少ない。

c．主婦の従事する総労働時間

表 2-8　平均農作業時間　（1人1日）

	経営形態				全体平均
	稲作		酪農	果樹	
	専業	複合			
農繁期	8時間17分	8時間8分	6時間21分	8時間3分	7時間48分
平常期	4時間49分	4時間52分	5時間2分	4時間56分	4時間55分
農閑期	2時間4分	3時間31分	4時間21分	2時間15分	2時間3分

表 2-9　最長・最短農作業時間　（1人1日）

		経営形態				全体平均
		稲作		酪農	果樹	
		専業	複合			
農繁期	最長	18時間0分	20時間0分	13時間0分	15時間0分	16時間30分
	最短	3時間0分	1時間0分	1時間0分	2時間0分	1時間45分
平常期	最長	12時間0分	14時間0分	9時間0分	10時間0分	11時間15分
	最短	1時間0分	1時間0分	1時間0分	2時間0分	1時間15分
農閑期	最長	10時間0分	18時間0分	10時間0分	8時間0分	11時間30分
	最短	1時間0分	1時間0分	1時間0分	1時間0分	1時間0分

表 2-10　平均家事作業時間　（1人1日）

	経営形態				全体平均
	稲作		酪農	果樹	
	専業	複合			
農繁期	3時間51分	3時間12谷	4時間35分	時間32分	3時間47分
平常期	4時間25分	3時間27分	5時間0分	4時間0分	4時間13分
農閑期	5時間43分	3時間31分	4時間57分	2時間23分	4時間23分

表 2-11　最長・最短家事作業時間　（1人1日）

		経営形態				全体平均
		稲作		酪農	果樹	
		専業	複合			
農繁期	最長	12時間0分	15時間0分	12時間0分	7時間0分	11時間30分
	最短	1時間0分	1時間0分	1時間0分	1時間0分	1時間0分
平常期	最長	12時間0分	12時間0分	12時間0分	7時間0分	10時間45分
	最短	1時間0分	1時間0分	2時間0分	2時間0分	1時間30分
農閑期	最長	12時間0分	12時間0分	12時間0分	7時間0分	10時間45分
	最短	1時間0分	1時間0分	2時間0分	2時間0分	1時間30分

表 2-12　農繁期・平常期・農閑期別主婦の労働時間（農作業＋家事作業）　（1人1日）

	経営形態				全体平均
	稲作		酪農	果樹	
	専業	複合			
農繁期	12時間8分	11時間20分	10時間56分	11時間58分	11時間36分
平常期	9時間13分	8時間19分	10時間2分	8時間56分	9時間8分
農閑期	7時間46分	7時間1分	9時間18分	5時間38分	7時間26分

図2—2 農繁・平常・農閑期別農作業及び家事労働時間【全体平均】

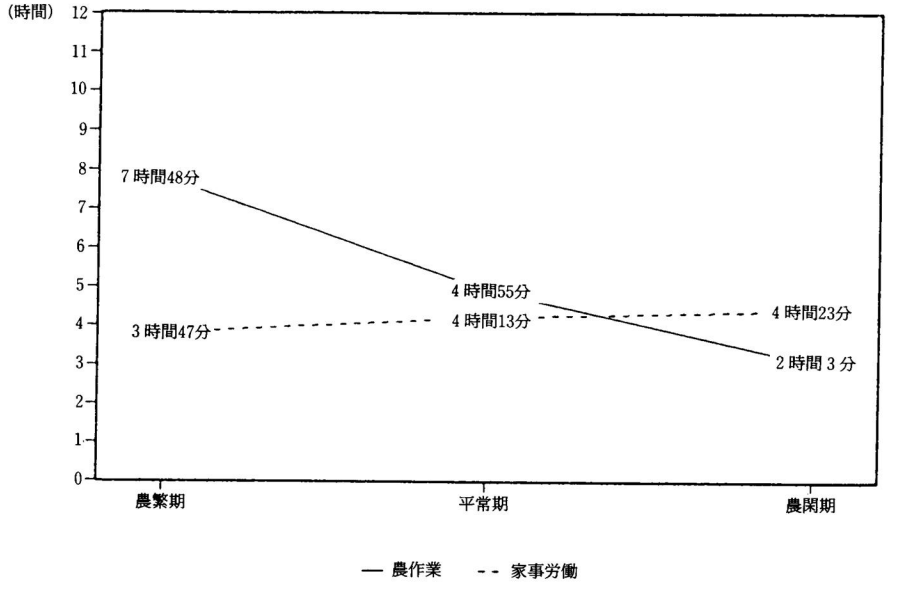


図2—3 農繁・平常・農閑期別農作業及び家事労働時間【稲作専業全体平均】

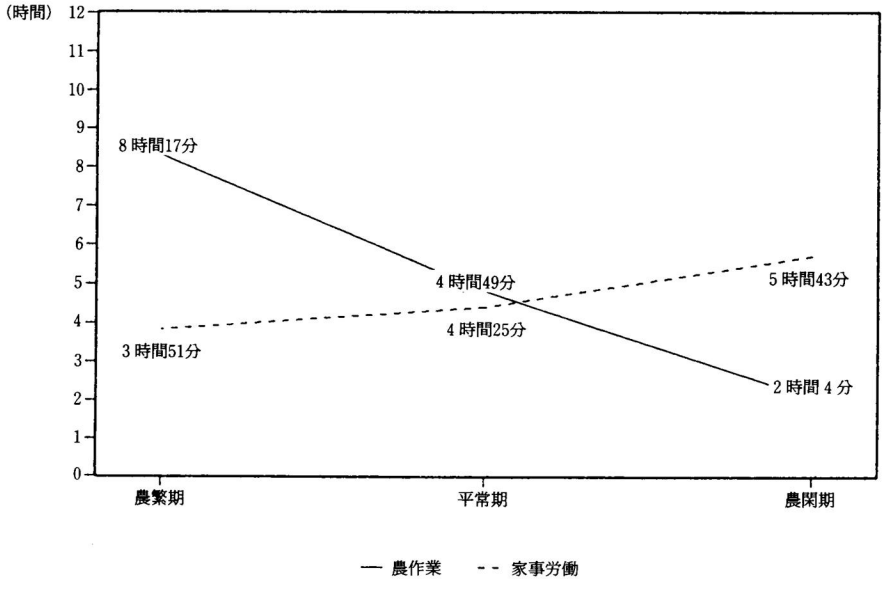


図2−4　農繁・平常・農閑期別農作業及び家事労働時間【稲作複合】

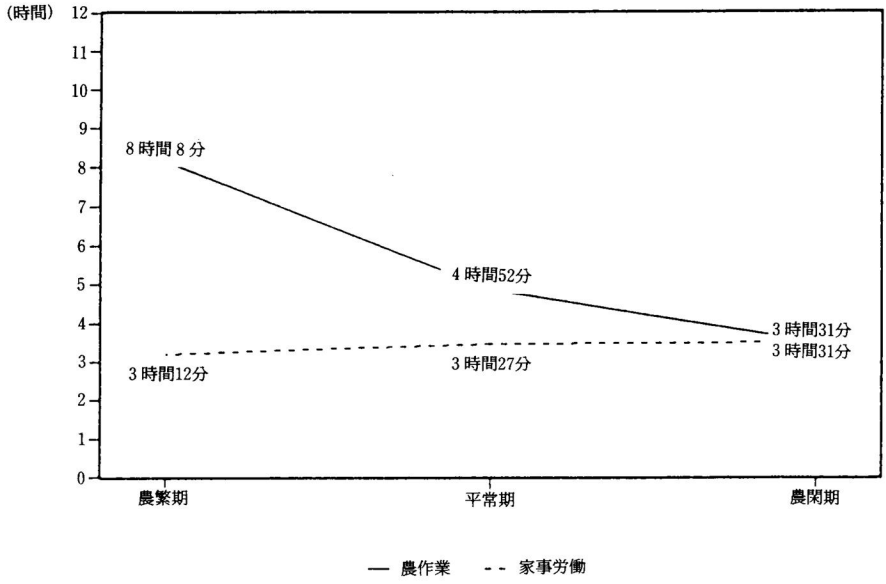


図2−5　農繁・平常・農閑期別農作業及び家事労働時間【酪農】

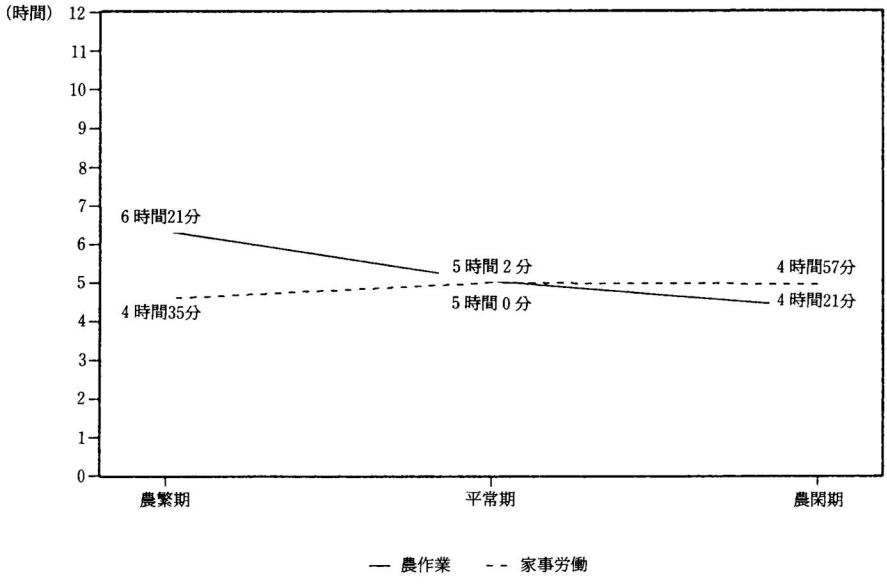
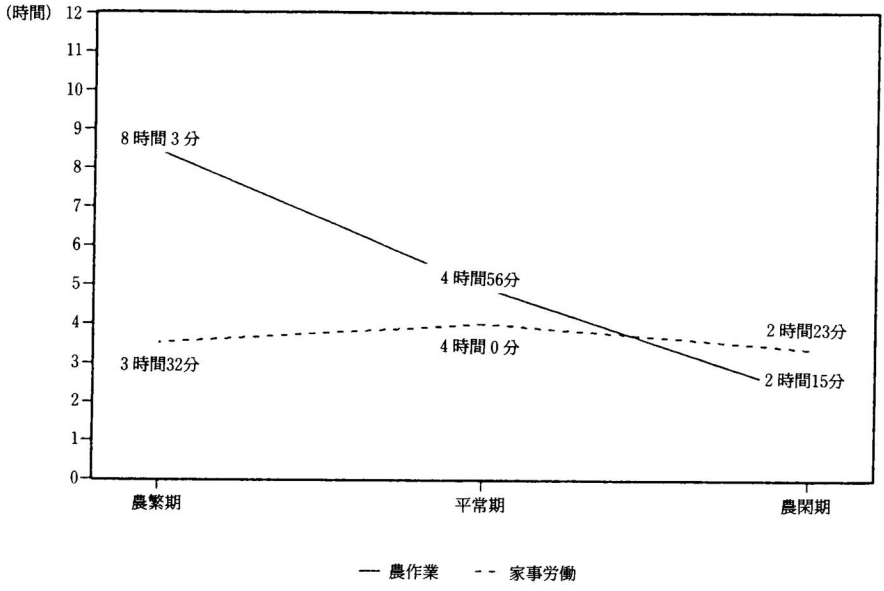


図2—6　農繁・平常・農閑期別農作業及び家事労働時間【果樹】



主婦の従事する労働時間について，農作業と家事作業についてみてきたが，1日の総労働時間としてみると，どのような時間になっているのであろうか。

その結果を表2－12でみてみると。

全体平均では，農繁期11時間36分，平常期11時間20分，農閑期6時間54分となり，農繁期と平常期の時間は大差ない。

当然のことながら農閑期は6時間54分と，農繁期の6割(61％)となっている。北海道ではこの割合が5割(52％）との値を示し，主婦の労働時間はいづれも農作業の繁・閑に大きな影響を受けていることがわわかる。

③農作業時間と家事作業時間の関連

図2－2～図2－6は，主婦の農作業時間と家事作業時間の関連を農繁閑期別，経営形態別に図示したものである。

各経営形態農家とも家事作業時間の長さは，農作業時間の長さに反比例して変化している姿がみられる。

このうち，稲作複合形態農家においては，農繁期から農閑期までの家事作業時間に大きな差はない。

調査対象農家における農作業及び家事作業の時間的構造についてアンケートの結果をもとにみてきたが，対象農家の主婦は，時間的にも農業の担い手として役割を果たすと共に，家庭生活を豊かに創造し，機能を発揮するために必要な家事時間を，各々の特質をもつ農業経営の中で如何に確保し，如何に充実させるかは，農家生活の質的向上にとって重要な課題であると云えよう。

4）農業労働における主婦労働の評価と経済的自由度

①農業の労働報酬

対象農家の主婦が行なった農業労働に対して，その報

表2-13　労働報酬

単位：人，(　)は%

	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
月給制	2 (3.8)	11 (21.6)	4 (7.7)	1 (3.1)	18 (19.3)
収入のあった時	9 (17.3)	11 (21.6)	12 (23.1)	11 (34.4)	43 (23.0)
正月・祭等の時	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
いつでも自由に	28 (53.8)	20 (39.2)	23 (44.2)	18 (56.3)	89 (47.6)
報酬でなく小遣	3 (5.8)	1 (2.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (2.1)
その他	5 (9.6)	3 (5.9)	6 (11.5)	1 (3.1)	15 (8.0)
もらわない	5 (9.6)	5 (9.8)	7 (13.5)	1 (3.1)	18 (9.6)
計	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)

酬は，どのようなかたちになっているのであろうか。

表2－13によって調査の結果をみると，対象農家主婦のうち18人9.6％がもらわないと答えているものの，他の90％が何らかの形で受け取っている。

その受け取り方をみると，「いつでも自由に」47.6％が過半数近くで最も多く，つづいて「収入のあった時にもらう」23.0％，「月給制」19.3％であった。

経営形態別にみると，稲作専業農家と果樹農家では「いつでも自由に」が過半数を占めている。

これに対して，稲作複合農家では「月給制」と「収入のあった時にもらう」が同じく21.6％であった。

②労働報酬の受け取り方

労働報酬の受け取り方は表2－14のようになった。

全体としては「夫から」が65.1％あった。続いて「家計費から」20.7％となっている。経営形態別にみても殆ど同じとなっている。

表2-14　報酬の受け取り方　　単位：人，(　)は％

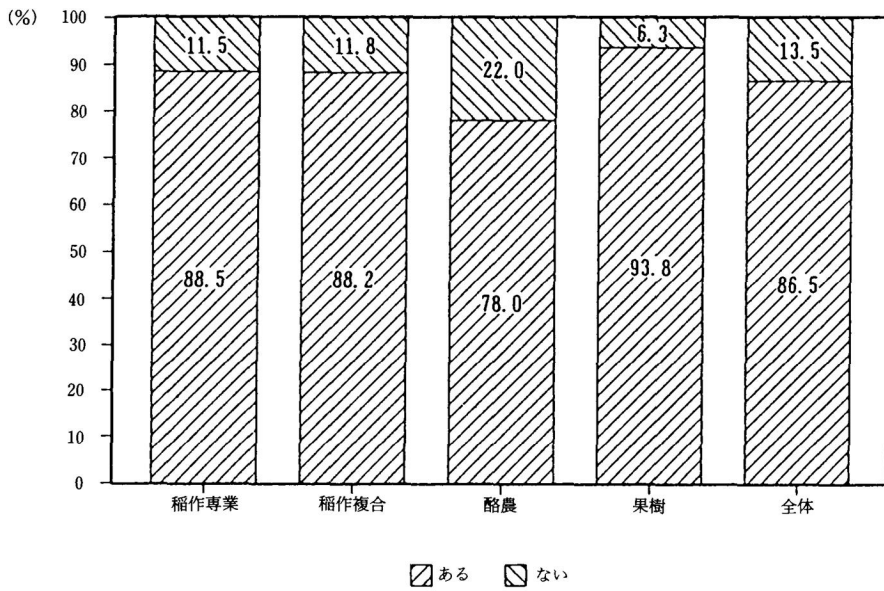
	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
夫からもらう	28 (59.6)	31 (67.4)	31 (68.9)	20 (64.5)	110 (65.1)
義父からもらう	2 (4.3)	0 (0.0)	2 (4.4)	1 (3.2)	5 (3.0)
義母からもらう	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
家計費からもらう	11 (23.4)	8 (17.4)	9 (20.0)	7 (22.6)	35 (20.7)
その他	6 (12.8)	7 (15.2)	3 (6.7)	3 (9.7)	19 (11.2)
計	47	46	45	31	169

注）労働報酬を「もらわない」を除いた数

表2-15　自分名義の預金通帳　　単位：人，(　)は％

	経営形態				全体平均
	稲作		酪農	果樹	
	専業	複合			
有	46 (88.5)	45 (88.2)	39 (75.0)	30 (93.8)	160 (85.6)
無	6 (11.5)	6 (11.8)	11 (21.2)	2 (6.3)	25 (13.4)
N.A.	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.8)	0 (0.0)	2 (1.1)
計	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)

図2－1　自分名義の預金通帳



③自分名義の預金通帳

主婦が自分名義の預金通帳の有無についての結果は表2－15と図2－1のようになった。全体としては86.5％が「有」と答えている。

経営形態別にみると，酪農家が「有」とする答えが78％で最も少なかった。

以上の結果から，農作業における主婦労働の経済的評価については，労働報酬は一応あり，自分名義の預金通帳を所有し形式的には評価しようといった傾向は確認されるものの，現実には，その金額をはじめとして使用についての自由配慮がどの程度であるかはもんだいである。

3. 家事・家計の管理

(1)家事の担当者

表3－1によると，全体的にみて妻がよくやる家事として担当率が最も高いのは「料理」(96.8％)，ついで「食器洗い」(95.7％)と「せんたく」(95.7％)である。「そうじ」(92.0％)と「子どもの世話」(88.2％)についても9割前後の主婦が担当している。しいていえば「買い物」(84.0％)の担当率が他の家事内容に比べると低いといえよう。

これを経営形態別にみても「料理」，「食器洗い」，「せんたく」を妻が担当する割合はいずれも高く，特に酪農家では，これらは100パーセント近い。これは，酪農家の核家族率が他に比較して若干高かったことによる影響と思われる。

妻以外に，親およびそれ以外の人による家事の担当状況は非常に少なく，「買い物」を全体で約1割(10.2％)の夫が担当している程度であった(表3－2)。

また，親がよくやる家事としては「子供の世話」(全体で6.4％)がわずかではあるがみられた(表3－3，－4)。

(2)家庭外サービスの利用状況

表3－5にみるように，ほとんど毎日利用する家庭外サービスとしては，第1に「持ち帰り弁当」(56.7％)，第2に「漬け物」(44.9％)があげられた。伝統的食品の一つである「漬け物」だが，韓国に於いても自家用加工品としてではなく，外部サービスとしての利用が増えているということであろうか。

つぎに，週に1～2回程度利用する家庭外サービスとしては，「調理済み食品」(34.2％)と「加工・冷凍食品」(23.0％)があげられた。いずれも利用率は2，3割程度であるが，これらが韓国においても着実に浸透してきている様子がうかがえる。月に1～2回程度利用する家庭

表3-1　妻がよくやる家事　　単位：人，(　)は％

	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
買い物	44 (84.6)	40 (78.4)	45 (86.5)	28 (87.5)	157(84.0)
料理	50 (96.2)	47 (92.2)	52(100.0)	32(100.0)	181 (96.8)
食器洗い	50 (96.2)	46 (90.2)	52(100.0)	31 (96.9)	179 (95.7)
そうじ	49 (94.2)	45 (88.2)	48 (92.3)	30 (93.8)	172 (92.0)
せんたく	50 (96.2)	47 (92.2)	51 (98.1)	31 (96.9)	179 (95.7)
子どもの世話	47 (90.4)	39 (76.5)	49 (94.2)	30 (93.8)	165 (88.2)
計	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)

※複数回答

表3-2　夫がよくやる家事　　単位：人

	経営形態								計	
	稲作				酪農		果樹			
	専業(％)		複合(％)		(％)		(％)		(％)	
買物	4	7.7	7	13.7	6	11.5	2	6.3	19	10.2
料理	0	0.0	2	3.9	0	0.0	0	0.0	2	1.1
食器洗い	0	0.0	2	3.9	0	0.0	0	0.0	2	1.1
そうじ	1	1.9	1	2.0	1	1.9	0	0.0	3	1.6
せんたく	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
子供の世話	0	0.0	2	3.9	1	1.9	0	0.0	3	1.6
対象人数	52		51		52		32		187	

※複数回答

表 3-3　親がよくやる家事　　単位：人

	経営形態								計	
	稲作				酪農		果樹			
	専業(%)		複合(%)		(%)		(%)		(%)	
買物	2	3.8	1	2.0	1	1.9	1	3.1	5	2.7
料理	1	1.9	1	2.0	0	0.0	0	0.0	2	1.1
食器洗い	1	1.9	2	3.9	0	0.0	0	0.0	3	1.6
そうじ	1	1.9	4	7.8	1	1.9	0	0.0	6	3.2
せんたく	1	1.9	2	3.9	0	0.0	0	0.0	3	1.6
子供の世話	4	7.7	6	11.8	1	1.9	1	3.1	12	6.4
対象人数	52		51		52		32		187	

※複数回答

表 3-4　その他の人がよくやる家事　　単位：人

	経営形態								計	
	稲作				酪農		果樹			
	専業(%)		複合(%)		(%)		(%)		(%)	
買物	1	1.9	3	5.9	0	0.0	1	3.1	5	2.7
料理	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
食器洗い	0	0.0	1	2.0	0	0.0	1	3.1	1	0.5
そうじ	0	0.0	1	2.0	2	3.8	2	6.3	5	2.7
せんたく	0	0.0	1	2.0	1	1.9	1	3.1	3	1.6
子供の世話	0	0.0	1	2.0	0	0.0	1	3.1	2	1.1
対象人数	52		51		52		32		187	

※複数回答

表 3-5　家庭外サービスの利用状況（全体）―上位5項目―　　単位：人，(　)は%

	ほとんど毎日利用		週に1～2回利用		月に1～2回利用	
1	持ち帰り弁当	106(56.7)	調理済み食品	64(34.2)	農協・銀行等の振替	82(43.9)
2	漬け物	84(44.9)	加工・冷凍食品	43(23.0)	クリーニング	62(33.2)
3	給食センター	23(12.3)	農協・銀行等の振替	32(17.1)	加工・冷凍食品	56(29.9)
4	農協・銀行等の振替	22(11.8)	漬け物	27(14.4)	調理済み食品	45(24.1)
5	保育所・託児所	15(8.0)	キャッシュカード	26(13.9)	キャッシュカード	43(23.0)

表 3-6　「ほとんど利用していない」家庭外サービス（全体）

献立材料の宅配サービス	187(100.0)
ホームヘルパー	187(100.0)
家政婦	184 (98.4)
デイ・サービス	184 (93.4)
ベビーシッター	178 (95.2)
保育所・託児所	161 (86.1)
給食センター	155 (82.9)
できあいの惣菜	147 (78.6)
店屋物の出前	138 (73.8)
クリーニング	107 (57.2)
キャッシュカード	105 (56.1)

注）「ほとんど利用していない」が50%以上のもの。単位：人，(　)は%

外サービスは「農協・銀行等の振替」(43.9％）と「クリーニング」(33.2％)である。これらの利用率は半数までは達していないが，他のサービスに比べると全体的に高い傾向にあった。

表3－6は各種サービスを「ほとんど使わない」と回答した結果についてまとめたものである。今回の調査であげた16項目の家庭外サービスのうち，11項目については「ほとんど利用しない」が全体の50％を越えている。これらのなかには，サービス施設や社会的制度が整っていないことにより利用がないもの，および家庭状況によって利用に大きく影響する項目も含まれている。このうちでは，「キャッシュカード」の利用が今後どの様に変化していくかは興味深い。

表 3-7　家庭外サービスの利用状況　　単位：人，(　)は%

		A.現在利用しているもの				B.今後利用したいもの
		ほとんど毎日	週に1-2回	月に1～2回	ほとんど使わない	
クリーニング	稲専業	1 (1.9)	1 (1.9)	17 (32.7)	32 (61.5)	0 (0.0)
	稲複合	5 (9.8)	5 (9.8)	19 (37.3)	22 (43.1)	0 (0.0)
	酪　農	0 (0.0)	3 (5.8)	18 (34.6)	31 (59.6)	0 (0.0)
	果　樹	0 (0.0)	2 (6.3)	8 (25.0)	22 (68.8)	0 (0.0)
調理済み食品	稲専業	2 (3.8)	18 (34.6)	12 (23.1)	20 (38.5)	0 (0.0)
	稲複合	3 (5.9)	21 (41.2)	8 (15.7)	19 (37.3)	0 (0.0)
	酪　農	1 (1.9)	18 (34.6)	16 (30.8)	17 (32.7)	0 (0.0)
	果　樹	3 (9.4)	7 (21.9)	9 (28.1)	13 (40.6)	0 (0.0)
加工食品・冷凍食品	稲専業	2 (3.8)	13 (25.0)	13 (25.0)	24 (46.2)	0 (0.0)
	稲複合	2 (3.9)	17 (33.3)	10 (19.6)	22 (43.1)	0 (0.0)
	酪　農	0 (0.0)	10 (19.2)	19 (36.5)	23 (44.2)	0 (0.0)
	果　樹	2 (6.3)	3 (9.4)	14 (43.8)	13 (40.6)	0 (0.0)
できあいの総菜	稲専業	3 (5.8)	2 (3.8)	7 (13.5)	40 (76.9)	1 (1.9)
	稲複合	2 (3.9)	3 (5.9)	4 (7.8)	42 (82.4)	1 (2.0)
	酪　農	1 (1.9)	4 (7.7)	7 (13.5)	40 (76.9)	0 (0.0)
	果　樹	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (21.9)	25 (78.1)	1 (3.1)
漬　物	稲専業	40 (76.9)	7 (13.5)	3 (5.8)	2 (3.8)	0 (0.0)
	稲複合	39 (76.5)	8 (15.7)	0 (0.0)	4 (7.8)	0 (0.0)
	酪　農	41 (78.8)	8 (15.4)	2 (3.8)	1 (1.9)	0 (0.0)
	果　樹	19 (59.4)	4 (12.5)	5 (15.6)	4 (12.5)	0 (0.0)
持ち帰り弁当	稲専業	28 (53.8)	6 (11.5)	4 (7.7)	14 (26.9)	0 (0.0)
	稲複合	32 (62.7)	3 (5.9)	0 (0.0)	16 (31.4)	0 (0.0)
	酪　農	28 (53.8)	4 (7.7)	3 (5.8)	17 (32.7)	1 (1.9)
	果　樹	18 (56.3)	3 (9.4)	0 (0.0)	11 (34.4)	1 (3.1)
店屋物の出前	稲専業	0 (0.0)	4 (7.7)	11 (21.2)	37 (71.2)	1 (1.9)
	稲複合	2 (3.9)	3 (5.9)	8 (15.7)	38 (74.5)	0 (0.0)
	酪　農	0 (0.0)	1 (1.9)	10 (19.2)	41 (78.8)	2 (3.8)
	果　樹	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (31.3)	22 (68.8)	0 (0.0)
献立材料の宅配サービス	稲専業	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	52 (100.0)	1 (1.9)
	稲複合	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	51 (100.0)	0 (0.0)
	酪　農	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	52 (100.0)	0 (0.0)
	果　樹	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	32 (100.0)	1 (3.1)
給食センター	稲専業	10 (19.2)	1 (1.9)	3 (5.8)	38 (73.1)	0 (0.0)
	稲複合	6 (11.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	45 (88.2)	0 (0.0)
	酪　農	4 (7.7)	0 (0.0)	1 (1.9)	47 (90.4)	0 (0.0)
	果　樹	3 (9.4)	0 (0.0)	4 (12.5)	25 (78.1)	0 (0.0)
保育所・託児所	稲専業	4 (7.7)	0 (0.0)	1 (1.9)	41 (78.8)	0 (0.0)
	稲複合	2 (3.9)	2 (3.9)	0 (0.0)	47 (92.2)	0 (0.0)
	酪　農	5 (9.6)	0 (0.0)	1 (1.9)	46 (88.5)	0 (0.0)
	果　樹	4 (12.5)	1 (3.1)	0 (0.0)	27 (84.4)	0 (0.0)
ベビーシッター	稲専業	2 (3.8)	0 (0.0)	1 (1.9)	49 (94.2)	0 (0.0)
	稲複合	2 (3.9)	1 (2.0)	1 (2.0)	47 (92.2)	0 (0.0)
	酪　農	1 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	51 (98.1)	0 (0.0)
	果　樹	1 (3.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	31 (96.9)	0 (0.0)
家政婦	稲専業	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	52 (100.0)	0 (0.0)
	稲複合	1 (1.9)	1 (1.9)	0 (0.0)	49 (94.2)	1 (1.9)
	酪　農	1 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	51 (98.1)	1 (1.9)
	果　樹	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	32 (100.0)	1 (3.1)
デイ・サービス	稲専業	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	52 (100.0)	0 (0.0)
	稲複合	1 (2.0)	1 (2.0)	0 (0.0)	49 (96.1)	0 (0.0)
	酪　農	0 (0.0)	1 (1.9)	0 (0.0)	51 (98.1)	0 (0.0)
	果　樹	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	32 (100.0)	1 (3.1)
ホームヘルパー	稲専業	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	52 (100.0)	0 (0.0)
	稲複合	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	51 (100.0)	0 (0.0)
	酪　農	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	52 (100.0)	0 (0.0)
	果　樹	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	32 (100.0)	0 (0.0)
農協・銀行等の振込	稲専業	8 (15.4)	8 (15.4)	16 (30.8)	20 (38.5)	0 (0.0)
	稲複合	5 (9.8)	11 (21.6)	25 (49.0)	10 (19.6)	0 (0.0)
	酪　農	7 (13.5)	8 (15.4)	27 (51.9)	10 (19.2)	0 (0.0)
	果　樹	2 (6.3)	5 (15.6)	14 (43.8)	11 (34.4)	2 (6.3)
キャッシュカード	稲専業	4 (7.7)	6 (11.5)	12 (23.1)	30 (57.7)	0 (0.0)
	稲複合	3 (5.9)	6 (11.8)	9 (17.6)	33 (64.7)	0 (0.0)
	酪　農	4 (7.7)	7 (13.5)	17 (32.7)	24 (46.2)	3 (5.8)
	果　樹	2 (6.3)	7 (21.9)	5 (15.6)	18 (56.3)	1 (3.1)

表3－7より家庭外サービスの利用を経営形態別にみても，特に偏って利用されているサービスはみられなかった。

(3)自家用加工品・自給現物の自家利用について

A）自家用加工品の利用状況

自家用加工品の有無，および自家用加工品を利用する理由について質問した結果は，表3－8－Aのようになった。

全体的にみて，自家用加工品が「ある」と回答した世帯は半数以下（48.1％）で，「ない」（52.9％）と回答した農家の方がわずかではあるが上回った。

経営形態別にみると，稲作複合農家（54.9％）において自家用加工品の利用が最も多く，つづいて酪農家(53.8％)，果樹農家(53.1％)の半数以上が自家用加工品が「ある」と回答している。これに対して稲作専業農家（32.7％）では自家用加工品の利用は3割程度と低い。

つぎに，これら自家用加工品を利用する主な理由についてみてみると，全体では「おいしい」（25.6％）と「買うより安全」（20.0％）があげられている。そうした理由にさらに，「買うより安上がり」（14.4％）といった経済性や，「家族が楽しみにしている」（15.6％）といった理由が加わっている。

利用する理由を経営形態別にみると，特に酪農家においては「おいしい」（42.9％）が，果樹農家においては「買うより安全」（41.2％）といった回答が多くみられた。

B）自給現物の自家利用の状況

自給現物の自家利用については表3－8－Bにみるように，全体の6割近く（59.4％）が「ある」と回答して

表 3-8-A　自家用加工品の有無と利用する理由　　単位：人，( )は%

		経営形態				計
		稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
有無	ある	17 (32.7)	28 (54.9)	28 (53.8)	17 (53.1)	90 (48.1)
	ない	35 (67.3)	23 (45.1)	24 (46.2)	15 (46.9)	97 (51.9)
	計	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)
利用する理由	売物にならない	0 (0.0)	1 (3.6)	1 (3.6)	1 (5.9)	3 (3.3)
	買うより安上がり	5 (29.1)	2 (7.1)	2 (7.1)	4 (23.5)	13 (14.4)
	買うより安全	2 (11.8)	3 (10.7)	6 (21.4)	7 (41.2)	18 (20.0)
	おいしい	5 (29.1)	6 (21.4)	12 (42.9)	0 (0.0)	23 (25.6)
	質がよい	1 (5.9)	5 (17.9)	2 (7.1)	3 (17.6)	11 (12.2)
	作る楽しみ	3 (17.6)	3 (10.7)	1 (3.6)	1 (5.9)	8 (8.9)
	家族が楽しみにして	1 (5.9)	8 (28.6)	4 (14.3)	1 (5.9)	14 (15.6)
	N.A.	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	計	17(100.0)	28(100.0)	28(100.0)	17(100.0)	90(100.0)

表 3-8-B　自給現物の自家利用の有無と利用する理由　　単位：人，( )は%

		経営形態				計
		稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
有無	ある	27 (51.9)	34 (66.7)	29 (55.8)	21 (65.6)	111 (59.4)
	ない	25 (48.1)	17 (33.3)	23 (44.2)	11 (34.4)	76 (40.6)
	計	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)
利用する理由		2 (7.4)	2 (5.9)	1 (3.4)	0 (0.0)	6 (5.4)
	買うより安上がり	9 (33.3)	2 (5.9)	3 (10.3)	3 (14.3)	17 (15.3)
	買うより安全	6 (22.2)	4 (11.8)	8 (27.6)	3 (14.3)	21 (18.9)
	おいしい	7 (25.9)	13 (38.2)	11 (37.9)	7 (33.3)	38 (34.2)
	質がよい	0 (0.0)	5 (14.7)	4 (13.8)	6 (28.6)	15 (13.5)
	作る楽しみ	1 (3.7)	3 (8.8)	0 (0.0)	2 (9.5)	6 (5.4)
	家族が楽しみにして	2 (7.4)	7 (20.6)	2 (6.9)	0 (0.0)	11 (9.9)
	N.A.	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	計	27(100.0)	34(100.0)	29(100.0)	21(100.0)	111(100.0)

いる。

経営形態別にみると，稲作複合農家（66.7％）と果樹農家（65.6％）において自給現物の自家利用が6割以上と高くなっている。前述した自家用加工品の利用が比較的少なかった稲作専業農家においても自給現物の自家利用については半数以上が「ある」と回答している。

自給現物を自家利用する理由については，全体的にはやはり「おいしい」(34.2％）が第1で，ついで「買うより安全」(18.9％)，「買うより安上がり」(15.3％)といった理由があげられた。「売り物にならない」(5.4％)は，理由としては少ない。

これを経営形態別にみると，稲作複合農家，酪農家，果樹農家では第1の理由として「おいしさ」があげられ，稲作専業農家で「おいしい」と「買うより安上がり」があげられた。

(4)家計費の記録状況

日常の家計費の出入りをどのように記録しているかについて質問した結果は，表3－9のようになった。

全体的にみると，「特に何もつけていない」とする回答が2割強（21.4％）であり，残りのおよそ8割が何らかの形で家計費の記録をつけている。経営形態別にみると，稲作複合農家において「記録は特にしない」(25.5％)が若干多くみられた。

つぎに家計費の記録方法としては，全体では「農協の家計簿」(39.6％)の利用が最も多かった。第1報で述べたようにわが国の場合には，「レシートなどをとっておいて後でまとめる」といった回答が最も多かったのに対して，韓国ではその割合は1割程度（13.4％）と低い。

記録方法を経営形態別にみると，「農協の家計簿」の利用は特に酪農家（46.9％）において高く，稲作複合農家

表 3-9 家計費の記録方法

単位：人，( )は%

	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
市販の家計簿	9 (17.3)	0 (0.0)	2 (3.8)	4 (12.5)	15 (8.0)
雑誌等付録家計簿	5 (9.6)	7 (13.7)	2 (3.8)	2 (6.3)	16 (8.6)
農協の家計簿	20 (38.5)	18 (35.3)	21 (40.4)	15 (46.9)	74 (39.6)
領収書等後でまとめる	6 (11.5)	6 (11.8)	10 (19.2)	3 (9.4)	25 (13.4)
自分で記録簿	1 (1.9)	3 (5.9)	1 (1.9)	1 (3.1)	6 (3.2)
記録は特にしない	8 (15.4)	13 (25.5)	12 (23.1)	7 (21.9)	40 (21.4)
その他	3 (5.8)	3 (5.9)	3 (5.8)	0 (0.0)	9 (4.8)
N.A.	0 (0.0)	1 (2.0)	1 (1.9)	0 (0.0)	2 (1.1)
計	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)

では全くみられなかった。「領収書等をとっておき後でまとめる」は，酪農家に若干多くみられた。

(5)家計管理上の問題点

家計管理上，現在問題となっていると思うことを複数回答で質問した結果は，表3－10のようになった。

全体として問題点としてあげられた上位3項目は，「子どもの教育費がかさむ」(67.9％)，「交際の費用がかさむ」(45.5％)，「収入が不規則」(41.7％)であった。韓国においても特に子どもの教育費負担の大きさが推測される結果である。「借金負債が負担」(36.4％)および「医療費がかさむ」(34.2％)も全体の3割以上が問題点としてあげている。

経営形態別にみると，稲作専業農家，稲作複合農家，酪農家ではそれぞれ8割前後が「子どもの教育費がかさむ」ことを第1の問題点としてあげている。これに対して果樹農家では「医療費がかさむ」(65.6％)を第1にあげ，「子どもの教育費がかさむ」(12.5％)は少ない。また，果樹農家では「交際の費用がかさむ」(50.0％)を半数が問題点としてあげている。「収入が不規則である」は，酪農家(51.9％)，稲作専業農家(50.0％)，稲作複合農家(47.1％)で半数前後が第2の問題点としてあげている。しかし，果樹農家では「収入が不規則」は1例のみであった。

「借金負債が負担」は，稲作複合農家(47.1％)で高くなっている。

表 3-10 家計管理上の問題

単位：人，( )は%

	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
交際の費用がかさむ	20 (38.5)	25 (49.0)	24 (46.2)	16 (50.0)	85 (45.5)
物が豊富だが何を買えばよいか	5 (9.6)	6 (11.8)	2 (3.8)	4 (12.5)	17 (9.1)
子供の教育費がかさむ	39 (75.0)	42 (82.4)	42 (80.8)	4 (12.5)	127 (67.9)
現物生産物を有効に使いたい	8 (15.4)	11 (21.6)	8 (15.4)	5 (15.6)	32 (17.1)
子供の子遣いの与え方	13 (25.0)	15 (29.4)	10 (19.2)	9 (28.1)	47 (25.1)
医療費がかさむ	12 (23.1)	18 (35.3)	13 (25.0)	21 (65.6)	64 (34.2)
収入が不規則	26 (50.0)	24 (47.1)	27 (51.9)	1 (3.1)	78 (41.7)
農協口座一括のため支出内容が不明	2 (3.8)	11 (21.6)	4 (7.7)	1 (3.1)	18 (9.6)
青色申告しているが家計費は推計	3 (5.8)	6 (11.8)	5 (9.6)	1 (3.1)	15 (8.0)
上手な貯蓄の仕方がわからない	8 (15.4)	9 (17.6)	3 (5.8)	3 (9.4)	23 (12.3)
財布をまかされていない	9 (17.3)	8 (15.7)	10 (19.2)	1 (3.1)	28 (15.0)
自分名義の預金通帳がない	1 (1.9)	3 (5.9)	7 (13.5)	1 (3.1)	12 (6.4)
借金負債が負担	12 (23.1)	24 (47.1)	20 (38.5)	12 (37.5)	68 (36.4)
特にない	0 (0.0)	1 (1.9)	1 (1.9)	1 (3.1)	3 (1.6)
N.A.	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
計	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)

※複数回答

表 3-11　今後身につけたいこと(1位)　　単位：人,(　)は%

	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪　農	果　樹	
得意な料理の種類をふやす	10 (19.2)	13 (25.5)	16 (30.8)	9 (28.1)	48 (25.7)
手軽にできる農畜産加工法	1 (1.9)	5 (9.8)	4 (7.7)	1 (3.1)	11 (5.9)
冷凍食品の加工利用方法	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
裁縫・仕立て・リフォームの方法	5 (9.6)	3 (5.9)	0 (0.0)	3 (9.4)	11 (5.9)
住宅の手入れの方法	5 (9.6)	4 (7.8)	1 (1.9)	3 (9.4)	13 (7.0)
家具・家財・電化製品の修理技術	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.9)	2 (6.3)	3 (1.6)
室内の装飾方法	1 (1.9)	5 (9.8)	6 (11.5)	3 (9.4)	15 (8.0)
家族や友人とのパーティのもち方	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.9)	0 (0.0)	1 (0.5)
賢い消費者になるための勉強	5 (9.6)	3 (5.9)	1 (1.9)	0 (0.0)	9 (4.8)
子どものしつけと教育方法	5 (9.6)	6 (11.8)	4 (7.7)	1 (3.1)	16 (8.6)
ワープロやコンピュータの利用技術	5 (9.6)	6 (11.8)	8 (15.4)	3 (9.4)	22 (11.8)
家族の健康管理の方法	10 (19.2)	4 (7.8)	9 (17.3)	4 (12.5)	27 (14.4)
高齢者との生活方法(介護等)	1 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
計	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)

表 3-12　今後身につけたいこと(全体)－上位3項目－　　単位：人,(　)は%

1　位	2　位	3　位
得意な料理の種類を増やす 48 (25.7)	子どものしつけと教育方法 34 (18.2)	室内の装飾方法 29 (15.5)
家族の健康管理の方法 27 (14.4)	室内の装飾方法 28 (15.0)	家族の健康管理の方法 22 (11.8)
ワープロ・コンピュータ利用技術 22 (11.8)	家族の健康管理の方法 27 (14.4)	子どものしつけと教育方法 18 (9.6)

(6)家庭の管理・運営上，今後身につけたいこと

家庭生活を管理，運営していく上で今後さらに身につけたいと思っていることを順に3位まであげてもらった。そのうち，第1位にあげられた内容を整理すると表3－11のようになった。

全体的には「得意な料理の種類をふやす」(25.7％)が最も多く，つづいて「家庭の健康管理の方法」(14.4％)といったように，家庭生活の幸せにつながるような項目があげられた。3番目に「ワープロやコンピューターの利用技術」(11.8％)があげられた。

表3－12は，さらに1位～3位までにそれぞれあげられた複数回答の結果を全体としてまとめたものである。

「得意な料理の種類を増やすこと」の必要性が他の項目に比べると強く意識されていることがわかる。また「家族の健康管理の方法」がいずれにもあげられており，関心の高さを示している。全体的にみると，今回の調査結果から韓国の農家の主婦は家族や家庭生活を大切に考える傾向がかなり強いように思われた。

(7)日常生活への満足感

日常生活への満足感を，家庭生活に関わる8項目，地域の生活環境に関わる6項目について質問した。

評価の方法は，各項目について大変満足＝4，満足＝3，不満＝2，大変不満＝1と点数化してあらわした。

1）家庭生活の満足度

家庭生活に関わる項目について，全体の満足度の平均は2.4で，不満と満足のほぼ中間となった。

各々の項目についてみると，満足度が比較的高くなったのは，「自分だけの自由時間」(2.7)，「家族そろってのレジャー・旅行」(2.7)，「家事への夫の参加・協力」(2.6)，「家族の財産と貯蓄」(2.6)である。

満足度が平均点よりも低かったのは，「家族揃っての食事」(2.1)，「夫婦の会話(時間)」(2.1)および「家電製品・家具・自動車などの耐久消費財の所有」(2.2)である。

表 3-13　家庭生活の満足度

	経営形態			
	稲作専業	稲作複合	酪　農	果　樹
1.家族そろっての食事	1.8	2.1	1.8	2.1
2.夫婦の会話(時間)	2.1	2.2	2.1	2.2
3.家事への夫の参加・協力	2.8	2.5	2.8	2.8
4.自分だけの自由時間	2.6	2.6	2.6	2.8
5.家族そろってのレジャー・旅行	3.0	2.8	3.0	2.7
6.家族の収入	2.5	2.6	2.5	2.5
7.家族の財産と貯蓄	2.6	2.6	2.6	2.5
8.家電製品・家具・自動車等の耐久消費財の所有	2.4	2.3	2.4	2.2
満足度の平均点	2.5	2.5	2.5	2.5

表 3-14　地域生活環境の満足度

	経営形態			
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹
1.スポー・レクリエーション施設	3.1	3.1	3.3	3.3
2.カルチャーセンター・習い事教室	3.2	3.2	3.3	3.4
3.幼児保育施設	3.1	3.1	3.3	3.1
4.図書館	3.2	3.2	3.4	3.1
5.保健所・病院	2.7	2.5	2.7	2.6
6.音楽・演劇等の鑑賞の機会	2.9	3.2	3.3	3.3
満足度の平均点	3.0	3.0	3.2	3.1

経営形態別にみると，「収入や財産・貯蓄」など，経済面については，各農家とも満足と不満足の中間にあり，「家族そろってのレジャー・旅行」は各形態とも満足度は高い。

また「家事への夫の参加・協力」は稲作複合が若干低い値となったが，他の経営形態は全般的に高かった。

2）地域生活環境の満足度

全体的にみて，満足度は前述の家庭生活の満足度と比較して高い数値となった。

これを経営形態別にみると，「図書館」「カルチャーセンター・習い事教室」「スポーツ・レクリエーション施設」「幼児保育施設」について，各経営形態の平均点は(3.0)～(3.2)の得点で「満足」の評価となっているが「保健所・病院」については，各経営形態ともに「満足」の評価は得られていない。

(8)農作業と家事作業の効率化対策

農作業と家事作業の効率化対策について，必要と思うことを複数回答で質問した結果は，表3－15及び表3－16のようになった。

1）農作業の効率化対策

全体として対策にあげられたベスト3は，①「機械化をすすめる」80.7％，②「生産の組織化・共同化」49.7％，③「作業を計画的にすすめる」44.4％であった。この他「流通の改善・共同出荷をすすめる」43.9％が続いた。

表 3-15　農作業の効率化対策　　単位：人，(　)は％

	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
機械化をすすめる	38 (73.1)	45 (88.2)	45 (86.5)	23 (71.9)	151 (80.7)
生産の組織化・共同化	25 (48.1)	26 (51.0)	20 (38.5)	22 (68.8)	93 (49.7)
労働配分を考えて作業体系をかえる	14 (26.9)	13 (25.5)	15 (28.8)	7 (21.9)	49 (26.2)
雇用労働をいれる	3 (5.8)	5 (9.8)	2 (3.8)	2 (6.3)	12 (6.4)
作業を計画的にすすめる	25 (48.1)	23 (45.1)	22 (42,3)	13 (40.6)	83 (44.4)
農業ヘルパーの利用	6 (11.5)	11 (21.6)	16 (30.8)	2 (15.6)	38 (20.3)
主婦の経営部面への参加をすすめる	11 (21.2)	10 (19.6)	18 (34.6)	5 (15.6)	44 (23.5)
その他	1 (1.9)	0 (0.0)	1 (1.9)	0 (0.0)	2 (1.1)
N.A.	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
対象人数	52	51	52	32	187

※複数回答

表 3-16　家事労働の効率化対策　　単位：人，(　)は％

	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
主婦の農作業を減らす	24 (93.0)	27 (52.9)	30 (97.5)	22 (68.8)	103 (55.1)
家族の協力で家事分担	39 (75.0)	32 (62.7)	39 (75.0)	23 (71.9)	133 (71.1)
家事の共同化等をすすめる	26 (50.0)	18 (35.3)	16 (30.8)	9 (28.1)	69 (36.9)
家事の外部化	0 (0.0)	3 (5.9)	3 (5.8)	5 (15.6)	11 (5.9)
家事作業の計画化	18 (34.6)	17 (33.3)	18 (34.6)	7 (21.9)	60 (32.1)
ホームヘルパー等の利用	1 (1.9)	1 (2.0)	0 (0.0)	1 (3.1)	3 (1.6)
家電製品の利用による省力化	8 (15.4)	18 (35.3)	21 (40.4)	11 (34.4)	58 (31.0)
家族が身の回りのことは自分でする	32 (61.5)	28 (54.9)	27 (51.9)	15 (46.9)	102 (54.5)
その他	15 (28.8)	2 (3.9)	2 (3.8)	2 (6.3)	21 (11.2)
N.A.	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
対象人数	52	51	52	32	187

※複数回答

経営形態別にみると，全経営形態の70％以上が「機械化をすすめる」をあげており，中でも稲作複合農家が88.2％で最も高く，続いて酪農家86.5％を示した。

果樹農家では「生産の組織化・共同化」68.8％，「流通の改善・共同出荷をすすめる」59.4％が上位にあがった。

また「作業の計画化」は各経営形態共々に40％以上となっている。

2）家事労働の効率化対策

表3－13によって，全体としてあげられた対策のベスト3は，①「家族の協力で家事分担をする」71.1％，②「主婦の農作業を減らす」55.1％，③「家族が身の廻りのことは自分でする」54.5％であり，第1報による北海道の場合と同一の項目があげられた。

更に続いて，「家事の共同化をすすめる」36.9％，「家事作業の計画化」32.1％，「家電製品の利用による省力化」31.0％が主な効率化としてあげられた。

経営形態別にみると，「主婦の農作業を減らす」，「家族の協力で家事分担」がいづれも高い割合となり，酪農家に於いては，「主婦の農作業を減らす」が97.5％，稲作専業農家では93.0％で，主婦の農作業が及ぼす家事労働への影響が大きいことがうかがえる。

以上の傾向は第1報3の北海道調査に於いても同様である。

全体を通し，家事労働の効率化対策としては，「主婦の農作業の減量対策」と共に「家族の協力による家事分担」「家族が身の廻りのことを自分でする」「家事作業の計画化」等の家族各々の生活技術の自立や家事分担と協力体制，家事作業の計画化など，生活経営の充実が求められ

図4－1　余暇時間の過ごし方（1位にあげたもの）

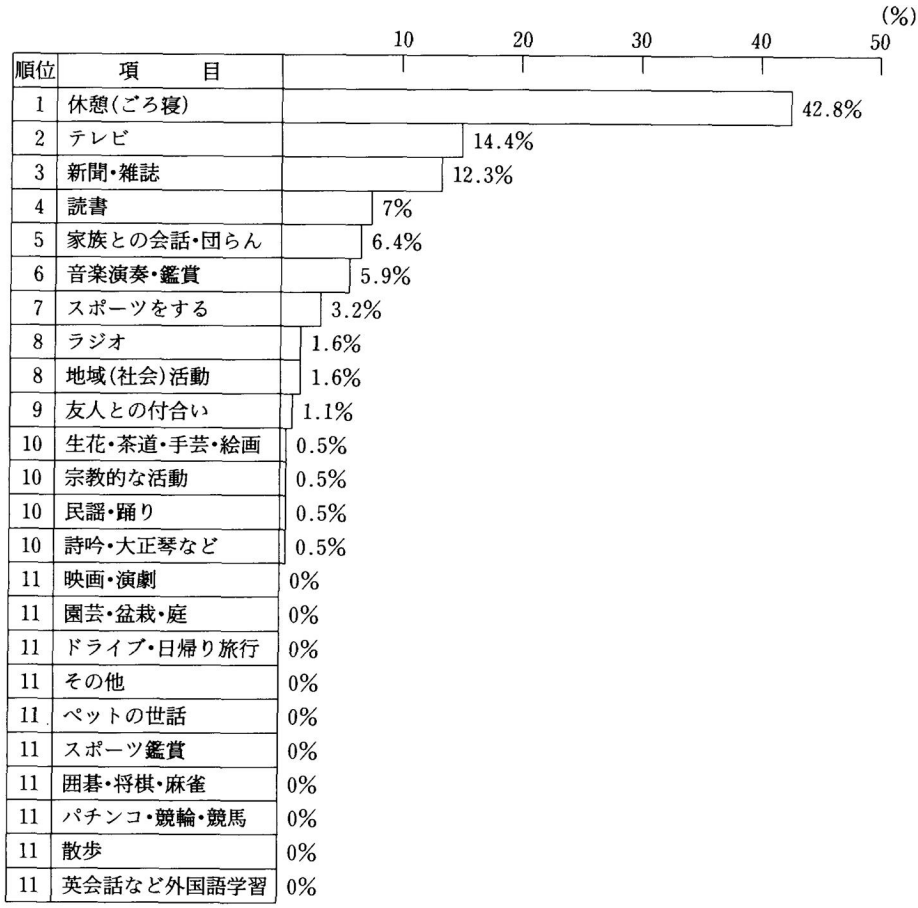


表 4-1　余暇の過ごし方(1位にあげたもの)　　単位：人,(　)は%

	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
休憩(ごろ寝,何もしない)	24 (46.2)	22 (43.1)	26 (50.0)	8 (25.0)	80 (42.8)
家族との会話・団らん	3 (5.8)	5 (9.8)	2 (3.8)	2 (6.3)	12 (6.4)
読書	4 (7.7)	5 (9.8)	2 (3.8)	2 (6.3)	13 (7.0)
新聞・雑誌	4 (7.7)	5 (9.8)	7 (13.5)	7 (21.9)	23 (12.3)
テレビ	8 (15.4)	6 (11.8)	6 (11.5)	7 (21.9)	27 (14.4)
ラジオ	3 (5.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (1.6)
音楽演奏・鑑賞	0 (0.0)	4 (7.8)	4 (7.7)	3 (9.4)	11 (5.9)
生花・茶道・手芸・絵画	1 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
ペットの世話	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
園芸・盆栽・庭の手入れ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (3.1)	1 (0.5)
散歩	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
友人との付き合い	0 (0.0)	1 (2.0)	1 (1.9)	0 (0.0)	2 (1.1)
スポーツをする	2 (3.8)	1 (2.0)	1 (1.9)	2 (6.3)	6 (3.2)
スポーツ鑑賞	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
囲碁・将棋・麻雀など	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
パチンコ・競輪・競馬	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
映画・観劇	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
ドライブ・日帰り旅行	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
民謡・踊り	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.9)	0 (0.0)	1 (0.5)
詩吟・大正琴等	0 (0.0)	1 (2.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.5)
英会話などの外国語の学習	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
宗教的な活動	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.9)	0 (0.0)	1 (0.5)
地域(社会)活動	2 (3.8)	0 (0.0)	1 (1.9)	0 (0.0)	3 (1.6)
その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
N.A.	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
対象	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)

ている。

4. 余暇生活活動

(1)余暇時間（自由時間）の過ごし方

1時24時間のうち，農作業や家事作業，食事，睡眠時間などの時間を除いた自由時間を余暇時間というが，この時間をどのように過ごしているかについて，24種類の項目をあげて，過ごすことの多い順に1位から5位まで選択してもらった。その結果1位にあげられた項目について，回答者の多い順にまとめたのが図4—1である。この中からベスト5をみると，第1位は「休憩(ごろ寝)」(42.8%)，大きな差をつけて「テレビ」(14.4%)，続いて「新聞・雑誌」(12.3%)，「読書」(7%)，「家族との会話・団らん」(6.4%)の順となっており，休養中心の静的型の余暇といえよう。これは第1報による「北海道の実態」と同じ傾向を示した。

次に，表4—1によって経営形態別に余暇の過ごし方をみると，各経営形態とも，休憩(ごろ寝)，テレビで約60%以上を占めており，ラジオの活用は稲作専業に3人のみと少なかった。

余暇活動の内容としては，全体的に休養中心型であり，活動の種類も実施人数の多少は別として，24項目中15項目（63%）に止まった。

今後，趣味や文化，スポーツ，地域活動など，参加型の余暇活動が期待されるところである。

(2)年間の休日日数

農業や兼業に従事しなかった日を「休日」として，昨年（1994年）1年間のおよその日数を質問した結果は表

表 4-2　年間休日数

	経営形態			
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹
平均休日	25.7	27.2	21.0	24.6
最高休日	99.0	90.0	99.0	99.0
最低休日	0.0	0.0	0.0	0.0

4－2のようになった。

年間平均休日数は，各経営形態共25日前後であった。これを，前年（1994年）1年間の韓国における休日（66日）と比較してみると，稲作専業38.9％，稲作複業41.2％，酪農31.8％，果樹37.2％となった。

また，休日（66日）と調査対象農家の経営形態別最高休日数と比較すると，稲作複合は136％，他の3形態共150％となった。

以上は，各農家におけるおよその年間休日を単なる延べ日数を「量」でとらえて，勤労者の年間休日数との比較を試みたのであるが，問題になるのは「休日のとり方」であろう。

すでにみたように，各々の経営形態別農家における農作業は，農作物の成育過程により，繁・閑の差がある。このことが農家の休日を規制する大きな条件の一つとなっている。

農作物の成育や家畜の飼育，更に自然条件とも深くかかわる農家の労働構造と，勤労者（サラリーマン）の労働構造との違いがここにある。この特質がもつマイナスの要因をいかにカバーして，目的にそった休日を確保するかは，生活経営のみではなく，農業経営のあり方，更に社会資本の充実等にかかわる大きな課題であるといえよう。

(3)休日への意向

主婦が望む休日のあり方について，4項目にわたって質問した結果は，表4－3のようになった。

表4-3　休日のあり方　　単位：人，(　)は％

	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪　農	果　樹	
ぜひ週2日ほしい	13 (25.0)	12 (23.5)	6 (11.5)	5 (15.6)	36 (19.3)
週1日はとるべき	19 (36.6)	19 (37.3)	27 (51.9)	12 (37.5)	77 (41.2)
週休確保が難しい	13 (25.0)	16 (31.4)	16 (30.8)	10 (31.3)	55 (29.4)
その他	6 (11.5)	4 (7.8)	1 (1.9)	5 (15.6)	16 (8.6)
N.A.	1 (1.9)	0 (0.0)	2 (3.8)	0 (0.0)	3 (1.6)
計	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)

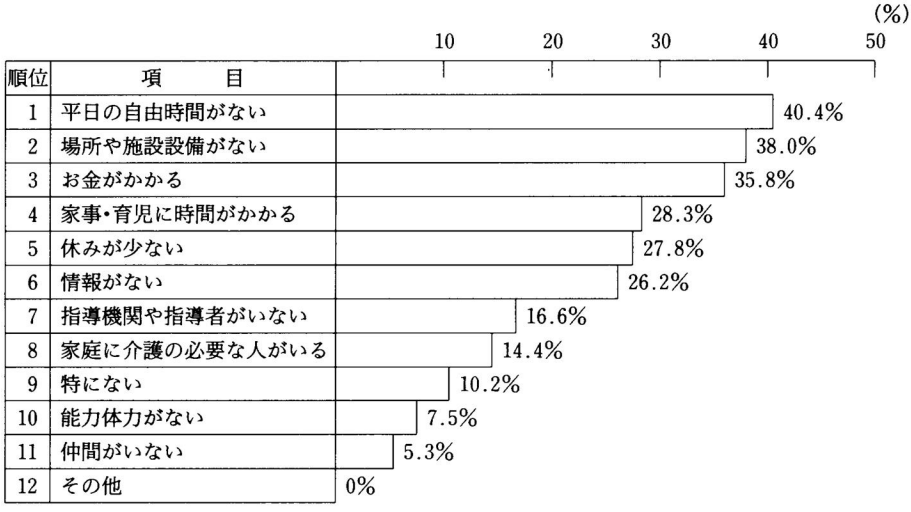
まず全体の29.4％の主婦は「週休の確保は難しい」と考えているが，何らかのかたちで「週1日はとるべき」との意向を示した割合は41.2％となった。「是非とも2日ほしい」は19.3％で，「週1日はとるべき」とを合わせると，全体で60.5％の主婦が，週休確保に大きな願いをもっていることがわかる。

本研究の北海道調査結果では，「週休確保は難しい」と考えている主婦は52.0％にのぼっているが，「週1日はとるべき」との意向は34.5％，「是非とも2日ほしい」2.1％となり，合わせて36.1％となった。北海道に比較すると，休日の確保の難易度は低いものの，実現への壁は厚く，主婦の願いは韓国，日本とも同じ姿がうかがえる。

経営形態別にみると，「毎週確保は難しい」が各々25％～30％あるものの，「週1日はとるべき」がいずれも「確保が難しい」意向を上回り，とくに酪農経営農家では51.9％の割合を示し，希望の大きさを物語っている。

「その他」の意向が全体で8.6％，果樹農家で15.6％，

図4－2　余暇時間のさまたげ



稲作専業で11.5％，稲作複合で7.8％あった。

(4)余暇活動の阻害要因

休日の確保が難しさを示す中で，余暇活動のさまたげになっているものは，どのようなことであろうか。活動のさまたげについて複数回答で質問した結果は図4－2のようになった。

これによると「平日の自由時間がない」(40.4％)，続いて「場所や施設・設備がない」(38.0％)，「お金がかかる」(35.8％)，が30％台を占めており，続いて「家事・育児に時間がかかる」(28.3％)，「休みが少ない」(27.8％)，「情報がない」(26.2％)となっている。上位の割合を占める要因をみると，自由時間や休みの不足，経済問題，家事・育児の問題など主婦の年齢から当然といえる要因があげられている。

次に，経営形態別に「余暇活動のさまたげ」の要因を表4－4によってみるとどの経営形態をみても，「平日の自由時間がない」「休日が少ない」が上位を占める結果となった。この傾向は，北海道農家と同様である。

更に，「お金がかかる」も上位を占めているが，この項目は稲作農家が40％以上の高い割合を示しているのに対し，果樹農家では18.8％に止まっているのが特徴的であ

表4-4　経営形態別余暇活動のさまたげ　　単位：人，(　)は%

	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
平日の自由時間がない	21 (40.4)	20 (39.2)	23 (44.2)	12 (37.5)	76 (40.6)
お金がかかる	21 (40.4)	23 (45.1)	17 (32.7)	6 (18.8)	67 (35.8)
休日が少ない	12 (23.1)	14 (27.5)	16 (30.8)	10 (31.3)	52 (27.8)
家事・育児に時間がかかる	14 (26.9)	18 (35.3)	12 (23.1)	9 (28.2)	53 (28.3)
家庭に介護の必要な人がいる	3 (5.8)	8 (15.7)	7 (13.5)	9 (28.2)	27 (14.4)
能力・体力がない	4 (7.7)	3 (5.9)	7 (13.5)	0 (0.0)	14 (7.5)
仲間がいない	2 (3.8)	4 (7.8)	3 (5.7)	1 (3.1)	10 (5.3)
情報がない	11 (21.2)	13 (25.5)	15 (28.8)	10 (31.3)	49 (26.2)
場所や施設・設備がない	16 (30.8)	20 (39.2)	22 (42.3)	13 (40.6)	71 (38.0)
指導機関や指導者がいない	11 (21.2)	7 (13.7)	9 (17.3)	4 (12.5)	31 (16.6)
その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
特にない	5 (9.6)	3 (5.9)	8 (15.4)	3 (9.4)	19 (10.2)
N.A.	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
対象	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)

※複数回答

表4-5　参加している集団・活動　　単位：人，(　)は%

	経営形態				計
	稲作専業	稲作複合	酪農	果樹	
農協婦人部	28 (53.8)	29 (56.9)	30 (57.7)	20 (62.5)	107 (57.2)
若妻会	14 (26.9)	9 (17.6)	5 (9.6)	3 (9.4)	31 (16.6)
町内会	30 (57.7)	27 (52.9)	15 (28.8)	22 (68.8)	94 (50.3)
生活改善グループ	8 (15.4)	7 (13.7)	4 (7.7)	5 (15.6)	24 (12.8)
趣味のグループ	21 (40.4)	24 (47.1)	23 (44.2)	13 (40.6)	81 (43.3)
PTA	2 (3.8)	2 (3.9)	1 (1.9)	3 (9.4)	8 (4.3)
ボランティアグループ	3 (5.8)	3 (5.9)	3 (5.8)	0 (0.0)	9 (4.8)
スポーツのグループ	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
消費団体・グループ	1 (1.9)	1 (2.0)	0 (0.0)	1 (3.1)	3 (1.6)
地区の祭り・レクリエーションのグループ	5 (9.6)	6 (11.8)	4 (7.7)	1 (3.1)	16 (8.6)
地区の共同作業	0 (0.0)	2 (3.9)	1 (1.9)	0 (0.0)	3 (1.6)
その他	0 (0.0)	2 (3.9)	5 (9.6)	0 (0.0)	7 (3.7)
特になし	0 (0.0)	0 (0.0)	45 (86.5)	0 (0.0)	45 (24.1)
対象	52(100.0)	51(100.0)	52(100.0)	32(100.0)	187(100.0)

※複数回答

る。

次に家族がかかわる阻害要因として，「家事・育児によるもの」「家庭での介護者のかかわる問題」も見逃せない。これらのことから調査対象とした主婦の余暇問題は，主婦の家族周期の段階をはじめ，農業の特質と深く関連していることがわかる。

また，「場所や施設・設備」をはじめ，「情報の不足」や「指導者」の問題等，ハード・ソフトの両面から，広く社会との関連をもつ課題があげられていることも，今後の農家主婦の余暇生活の充実化にとっての大きな課題である。

(5)地域社会活動

次に，地域社会における対象農家主婦の活動実態を表4－5によってみると，複数回答の結果は対象農家全体では，農協婦人部が1位を占め，続いて町内会，趣味のグループ，若妻会，生活改善グループへの参加活動がめだっている。

この他，地区の祭り，レクリエーションなど，農村ならではの地域社会文化活動（16人）やボランティアグループ（9人），PTA（8人）などへの参加の様子が把握できた。ただ，スポーツのグループ活動参加者は皆無であり，参加活動は特になしとする答えが4・5人あった。その理由の把握も今後の必要事項と考える。

全体として，各経営形態ともに，調査対象となった農村若妻の生活実態・農村地域社会の特徴をも反映した，地域社会活動の実態であった。

5.　生活の情報化

韓国におけるパソコンの普及率は1994年で500万台を超えており，2000年には1000万台の普及が見込まれている[6]。本調査では，このように進みつつある情報化社会の中で，韓国の農家生活における情報化の現状，取り組みを知るとともに，情報化に対する多様な意識を明らかにする事を目的とした。

(1)農家生活をとりまく情報環境

はじめに，「情報化」＝コンピュータと限定せず，情報ソースを広くとらえ，どのような情報媒体を農家生活に取り入れて，それらに対しどのような意識を持っているか調査した。情報媒体として，新聞，カタログ（カタログショッピング用），ラジオ，テレビ，衛星放送付きテレビ（図表では一部BS付きテレビと略），ビデオ，電話，留守番機能付き電話（図表では一部留守番電話と略），携帯電話，ファクシミリ電話，ワープロ，パソコンの12種類を取り上げた。

表5-1　現在もっている情報媒体・情報関連機器（人）

	経営形態								計	
	稲作				酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)
新　聞	40	76.9	50	98.0	45	86.5	27	84.4	162	86.6
カタログ（カタログショッピング用）	7	13.5	17	33.3	8	15.4	7	21.9	39	20.9
ラジオ	48	92.3	51	100.0	45	86.5	28	87.5	172	92.0
テレビ	47	90.4	51	100.0	49	94.2	29	90.6	176	94.1
衛星放送付きテレビ	4	7.7	4	7.8	9	17.3	8	25.0	25	13.4
ビデオ	41	78.8	48	94.1	42	80.8	25	78.1	156	83.4
電　話	47	90.4	51	100.0	49	94.2	26	81.3	173	92.5
留守番機能付電話	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
携帯電話	4	7.7	3	5.9	3	5.8	3	9.4	13	7.0
ファクシミリ電話	3	5.8	7	13.7	7	13.5	3	9.4	20	10.7
ワープロ	5	9.6	3	5.9	4	7.7	2	6.3	14	7.5
パソコン	15	28.8	14	27.5	17	32.7	9	28.1	55	29.4
対象人数	52		51		52		32		187	

※複数回答

1）現在持っている情報媒体・情報関連機器

情報媒体・情報関連機器として現在すでに持っている（または購読している）と答えたものは表5－1のようになった。

表5－1から，すべての経営形態を通してほとんどの家庭で保有しているもの（ほぼ80％以上）だけを図5－1にまとめた。その内容は「テレビ」，「電話」，「ラジオ」，「新聞」，「ビデオ」となったが，特に稲作専業農家と稲作複合農家では新聞普及率が100％で全体でも98％という高い数字であった。

図5－1にあげた以外の，これから普及が進むであろう情報媒体・情報関連機器の保有率を図5－2にまとめた。その中では，パソコンの保有率が高かく，全体の29.4％であった。また，カタログショッピング（通信販売）が普及していることが示され，特に稲作複合農家では33.3％の高い普及率で全体でも20.9％であった。また，衛星放送付きテレビ，ファクシミリ電話の普及も全体として1割を超えていた。

2）将来持ちたい情報媒体・情報関連機器

現在は持っていないが近い将来持とう（または購読しよう）と考えている情報媒体・情報関連機器は表5－2の通りである。

「将来持ちたい情報媒体・情報関連機器」のうち全体の上位5項目にあげられたものを多い順に図5－3に表わした。携帯電話が49.2％と一番多く，ほぼ半数の人が将来持ちたいと希望していることがわかった。また，パソコン（42.2％），衛星放送付きテレビ（40.1％）にも高い

図5-1 現在持っている 情報媒体・情報関連機器—1

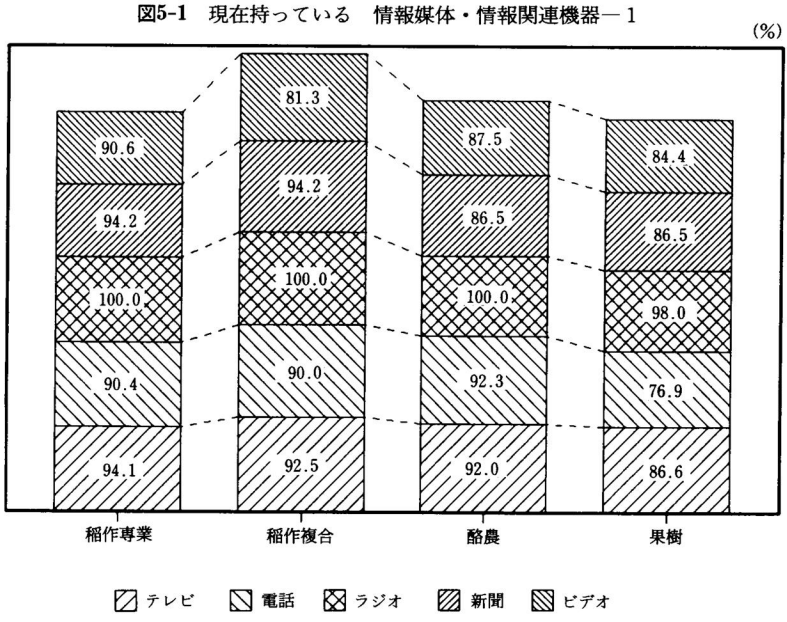


図5—2 現在持っている 情報媒体・情報関連機器—2

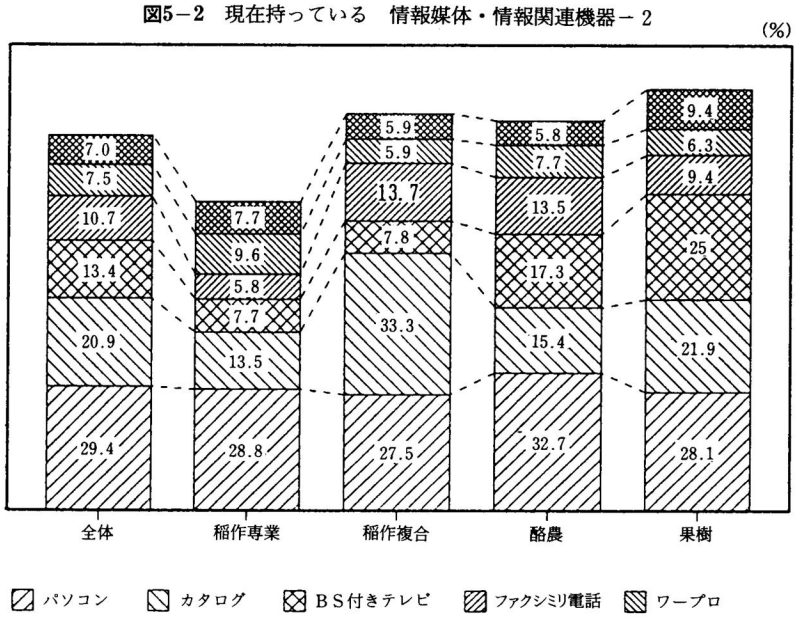


表5-2　将来持ちたい情報媒体・情報関連機器　(人)

	経営形態								計	
	稲作				酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)
新　聞	2	3.8	1	2.0	0	0.0	0	0.0	3	1.6
カタログ(カタログショッピング用)	7	13.5	32	62.7	4	7.7	2	6.3	45	24.1
ラジオ	1	1.9	0	0.0	0	0.0	1	3.1	2	1.1
テレビ	1	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
衛星放送付きテレビ	15	28.8	44	86.3	8	15.4	8	25.0	75	40.1
ビデオ	4	7.7	3	5.9	3	5.8	3	9.4	13	7.0
電　話	1	1.9	0	0.0	1	1.9	1	3.1	3	1.6
留守番機能付電話	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
携帯電話	22	42.3	46	90.2	13	25.0	11	34.4	92	49.2
ファクシミリ電話	3	5.8	41	80.4	11	21.2	7	21.9	62	33.2
ワープロ	5	9.6	45	88.2	7	13.5	6	18.8	63	33.7
パソコン	15	28.8	36	70.6	19	36.5	9	28.1	79	42.2
対象人数	52		51		52		32		187	

※複数回答

数字が示された。パソコンを持っている世帯はすでに全体の29.4％あり，残りの世帯だけを対象とするとその60％が将来持ちたいと考えていることがわかった。

図5－4は，各経営形態別の上位5項目である。稲作複合農家ではワープロを除いたすべの項目について高い数字が示され，このことは先進的な情報処理機器に対する積極的な興味のあらわれと言えよう。

3）必要不可欠な情報媒体・情報関連機器

生活に必要不可欠と思われる（現在もっている，持っていないにかかわらず）情報媒体・情報関連機器を各経営形態別にまとめると表5－3のようになった。

表5－3より，全体として高いものから低いものの順に図5－5に表わした。一位が「カタログ」という興味深い結果が示されたが，それでも12.8％であり，多くの人が必要不可欠であると考えている項目は見当たらない。

図5－3　将来持ちたい情報媒体・情報関連機器　［上位項目］　全体

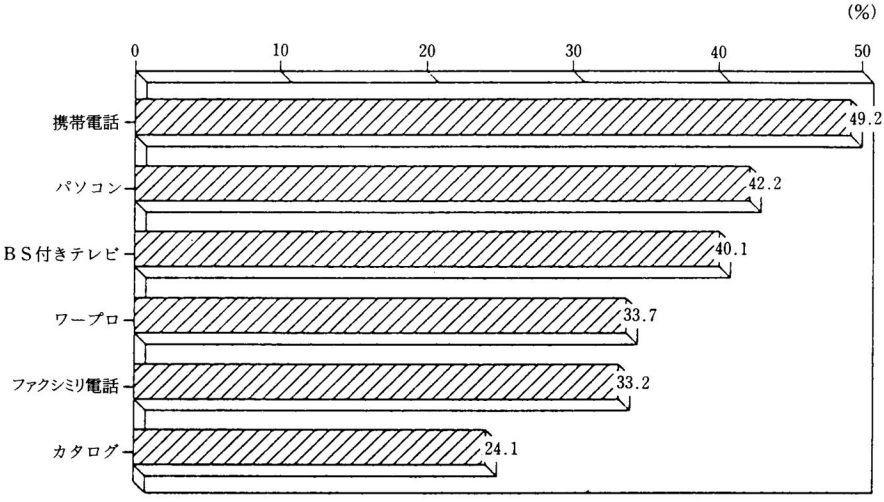


図5－4　将来持ちたい情報媒体・情報関連機器　［上位項目］　経営形態別

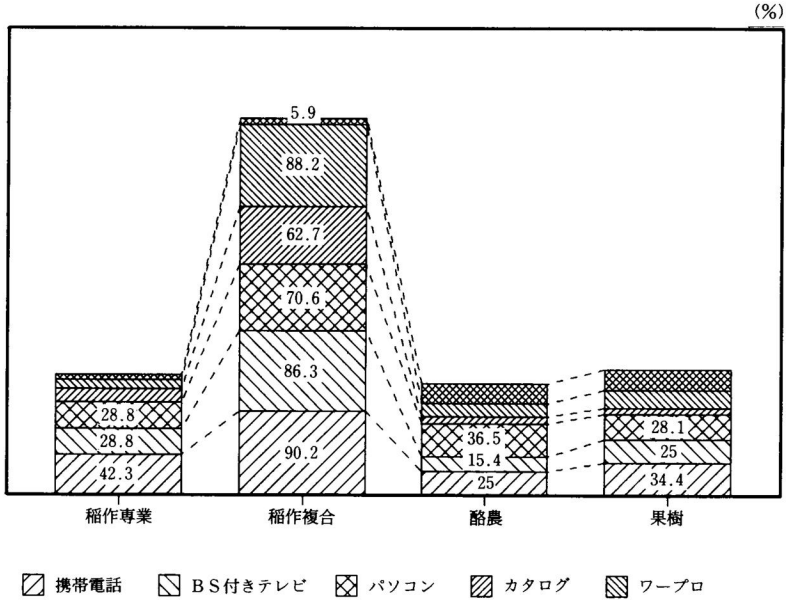


表5-3　必要不可欠の情報媒体・情報関連機器　(人)

	経営形態								計	
	稲作				酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)
新聞	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
カタログ(カタログショッピング用)	8	15.4	6	11.8	6	11.5	4	12.5	24	12.8
ラジオ	0	0.0	2	3.9	0	0.0	0	0.0	2	1.1
テレビ	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
衛星放送付きテレビ	5	9.6	4	7.8	4	7.7	1	3.1	14	7.5
ビデオ	0	0.0	1	2.0	3	5.8	0	0.0	4	2.1
電話	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
留守番機能付電話	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
携帯電話	6	11.5	2	3.9	4	7.7	3	9.4	15	8.0
ファクシミリ電話	8	15.4	5	9.8	2	3.8	6	18.8	21	11.2
ワープロ	7	18.5	5	9.8	5	9.6	6	18.8	23	12.3
パソコン	0	0.0	0	0.0	1	1.9	2	6.3	3	1.6
対象人数	52		51		52		32		187	

※複数回答

表5-4　あれば便利な情報媒体・情報関連機器　(人)

	経営形態								計	
	稲作				酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)
新聞	25	48.1	44	86.3	14	26.9	18	56.3	101	54.0
カタログ(カタログショッピング用)	18	34.6	35	68.6	12	23.1	9	28.1	74	39.6
ラジオ	24	46.2	43	84.3	10	19.2	15	46.9	92	49.2
テレビ	25	48.1	45	88.2	12	23.1	15	46.9	97	51.9
衛星放送付きテレビ	20	38.5	40	78.4	14	46.9	11	34.4	85	45.5
ビデオ	23	44.2	41	80.4	8	15.4	15	46.9	87	46.5
電話	23	44.2	46	90.2	1	1.9	15	46.9	85	45.5
留守番機能付電話	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
携帯電話	20	38.5	40	78.4	19	36.5	17	53.1	96	51.3
ファクシミリ電話	20	38.5	36	70.6	17	32.7	9	28.1	82	43.9
ワープロ	20	38.5	37	72.5	14	26.9	11	34.4	82	43.9
パソコン	29	55.8	44	86.3	22	42.3	19	59.4	114	61.0
対象人数	52		51		52		32		187	

※複数回答

4）あれば便利と考える情報媒体・情報関連機器

あれば便利と考える情報媒体・情報関連機器（現在持っている，持っていないにかかわらず）と答えたものは表5－4のようになった。

どの経営形態もほぼ同様の傾向にあるが，特に稲作複合農家では，2)と同様に「留守番機能付電話」を除いてほぼすべての項目に高い数字(「カタログ」68.6％～「電話」90.2％)が示された。全体としては，パソコンが61％と一番高かった。これらの項目について多いものから順に並べると図5－6のようになった。

図5−5　必要不可欠な情報媒体・情報関連機器　　全体

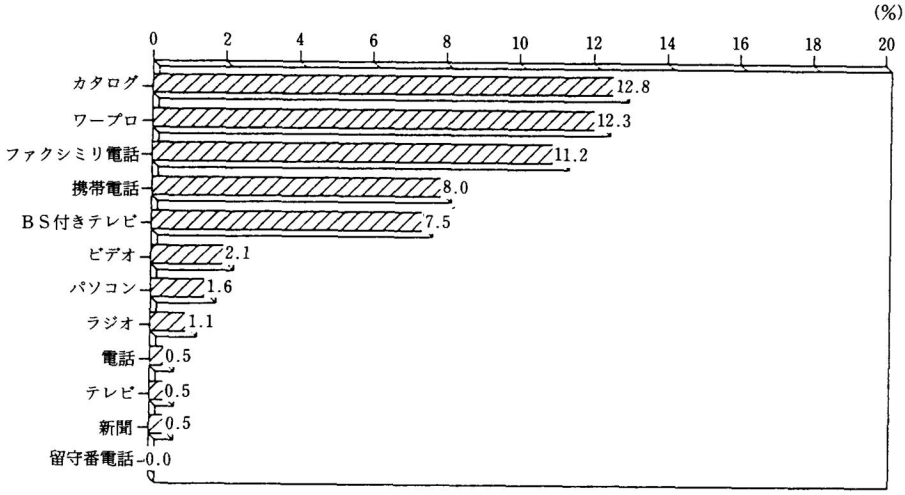
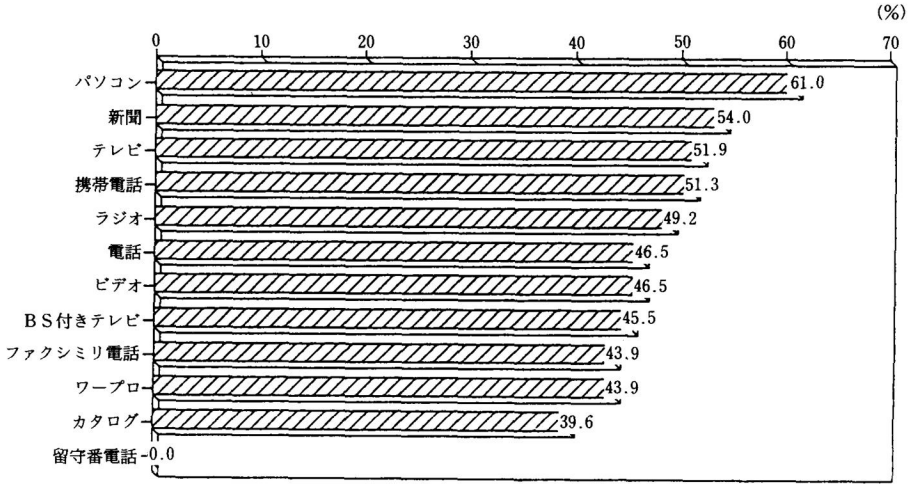


図5−6　あれば便利な情報媒体・情報関連機器　　全体



5）無くても良い情報媒体・情報関連機器

情報化社会の中で，どんどん新しい情報メディアが農家生活にも取り入れられている現状があるが，取り入れてはみたが無くても良いと考えられている，また，無くても良いと考えているので取り入れられていない情報媒体・情報関連機器がある。それらについては表5－5のようになった。

全体的に無くても良いと考えられている情報媒体・情報関連機器は少ないということがわかった。「カタログ」と「ファクシミリ電話」が上位2項目であったが，両者とも10％台前半であるに過ぎなかった。

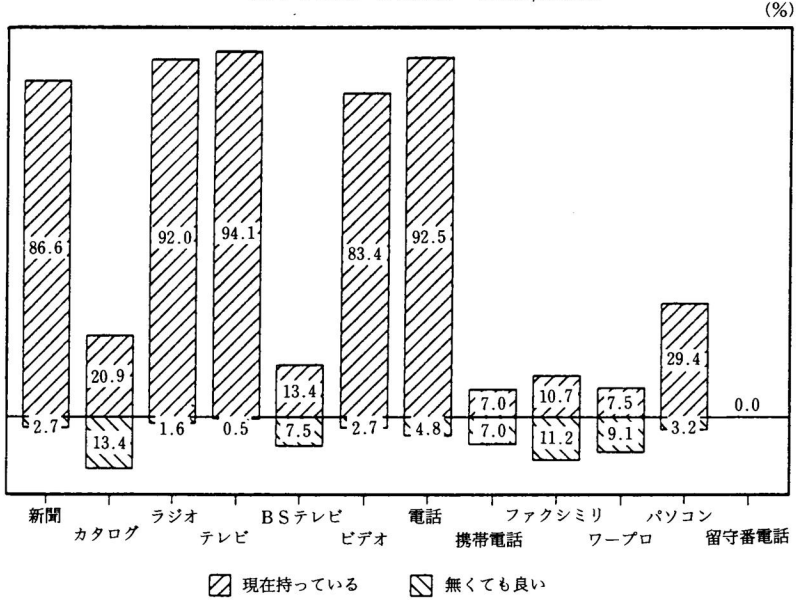
全ての項目について「現在持っているもの」と「無くても良いもの」を対比したものが図5－7である。「ファクシミリ電話」と「ワープロ」は現在持っている人の率よりも無くても良いと考えている人の率の方が高かった。

表5-5　無くても良い便利な情報媒体・情報関連機器　(人)

	経営形態								計	
	稲作				酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)
新聞	1	1.9	2	3.9	1	1.9	1	3.1	5	2.7
カタログ(カタログショッピング用)	7	13.5	9	17.6	3	5.8	6	18.8	25	13.4
ラジオ	0	0.0	1	2.0	1	1.9	1	3.1	3	1.6
テレビ	0	0.0	1	2.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
衛星放送付きテレビ	3	5.8	4	7.8	2	3.8	5	15.6	14	7.5
ビデオ	0	0.0	4	7.8	1	1.9	0	0.0	5	2.7
電話	0	0.0	0	0.0	9	17.3	0	0.0	9	4.8
留守番機能付電話	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
携帯電話	4	7.7	6	11.8	1	1.9	2	6.3	13	7.0
ファクシミリ電話	5	9.6	7	13.7	5	9.6	4	12.5	21	11.2
ワープロ	4	7.7	6	11.8	4	7.7	3	9.4	17	9.1
パソコン	0	0.0	3	5.9	2	3.8	1	3.1	6	3.2
対象人数	52		51		52		32		187	

※複数回答

図5－7　現在持っている情報媒体・情報関連機器と無くても良い情報媒体・情報関連機器



(2)ワープロ・パソコンからみた情報環境

次に農家生活における情報化をワープロ・パソコンといったいわゆる情報処理機器から見てる。

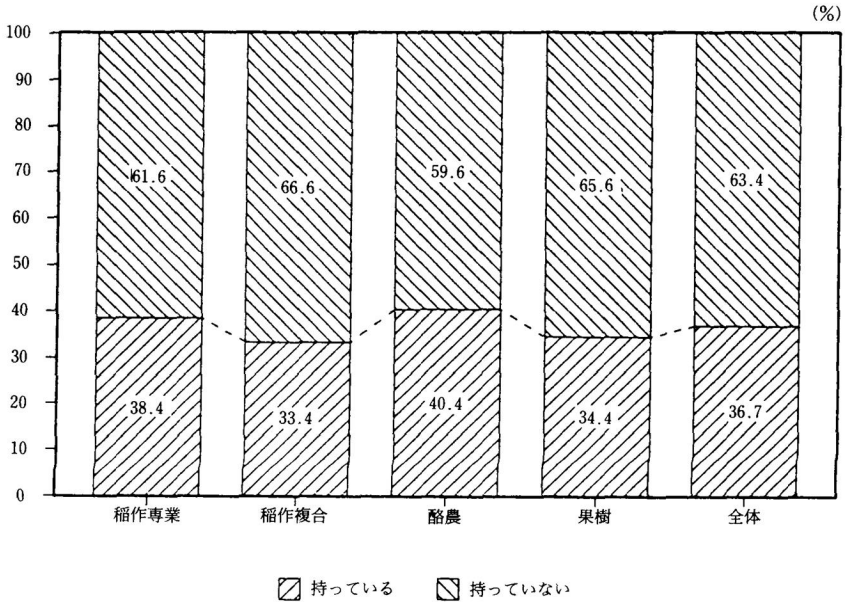
各経営形態別に「ワープロ」を持っている人，「パソコン」を持っている人の数は，表5－6のようになった。今回の調査ではどちらか一方だけを持っている人，両方持っている人の区別を付けることができなかったので，ワープロ，パソコン保有者の合計を「持っている」とし，

表5-6　ワープロ・パソコンの保有状況　(人)

	稲作専業		稲作複合		酪農		果樹		全体	
ワープロ	5	9.6	3	5.9	4	7.7	2	6.3	14	7.5
パソコン	15	28.8	14	27.5	17	32.7	9	28.1	55	29.4
対象人数	52		51		52		32		187	

※複数回答

図5－8　ワープロ・パソコンの保有状況



調査対象人数から前者を引いたものを「持っていない」として，各経営形態別に比較したものが図5－8である。

全体では「もっている」が36.9％で，「持っていない」が63.1％であったが，一番保有率の高い酪農家では4割(40.4％)を超えていた。これをパソコンだけに限ってみても全体の29.4％であり，1994年の韓国内のパソコンの普及率が11.5％であることと比較すると非常に高い保有率である[6]。

1）ワープロ・パソコンの現在の使い道

農家生活の中に，ワープロ・パソコンといった先端の情報処理機器が高い割合で保有されているのが明らかとなったが，現在それらはどのようなことに使われているのかその現状を調査した。

表5－7は，各経営形態別の現在の使い道である。農業簿記，農作業日誌など農家経営に直結した使い道と，教育，パソコンゲーム，日記・手紙など生活に密着した項目を設けた。全体としては「教育」(39.1％)，「パソコンゲーム」(31.9％)「住所録」(31.9％) といった生活面での使用項目に高い数値が見られた。しかし，果樹農家では「農業簿記」(36.4％)，「農作業日誌」(27.3％)，情報交換のための「パソコン通信」(27.3％)など農家経営に有効な項目にも高い数値がみられた。

表5-7　ワープロ・パソコンの現在の使い道　(人)

	経営形態								計	
	稲作				酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)
農業簿記	1	5.0	4	23.5	2	9.5	4	36.4	11	15.9
家計簿	3	15.0	3	17.6	2	9.5	1	9.1	9	13.0
農作業日誌	3	15.0	1	5.9	3	14.3	3	27.3	10	14.5
住所録	8	40.0	6	35.3	5	23.8	3	27.3	22	31.9
肥料計算	3	15.0	2	11.8	3	14.3	2	18.2	10	14.5
日記・手紙	2	10.0	3	17.6	3	14.3	1	9.1	9	13.0
飼料計算	1	5.0	4	23.5	3	14.3	2	18.2	10	14.5
教育	7	35.0	5	29.4	8	38.1	7	63.6	27	39.1
個体(牛など)管理	1	5.0	1	5.9	3	14.3	1	9.1	6	8.7
趣味	6	30.0	6	35.3	2	9.5	3	27.3	17	24.6
土壌診断	0	0.0	0	0.0	1	4.8	0	0.0	1	1.4
パソコンゲーム	6	30.0	5	29.4	6	28.6	5	45.5	22	31.9
パソコン通信-情報交換	3	15.0	1	5.9	0	0.0	3	27.3	7	10.1
-気象データ	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
-その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
営業計算	2	10.0	0	0.0	1	4.8	2	18.2	5	7.2
その他	1	5.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.4
対象人数	20		17		21		11		69	

※複数回答

図5－9　ワープロ・パソコンの現在の使い道

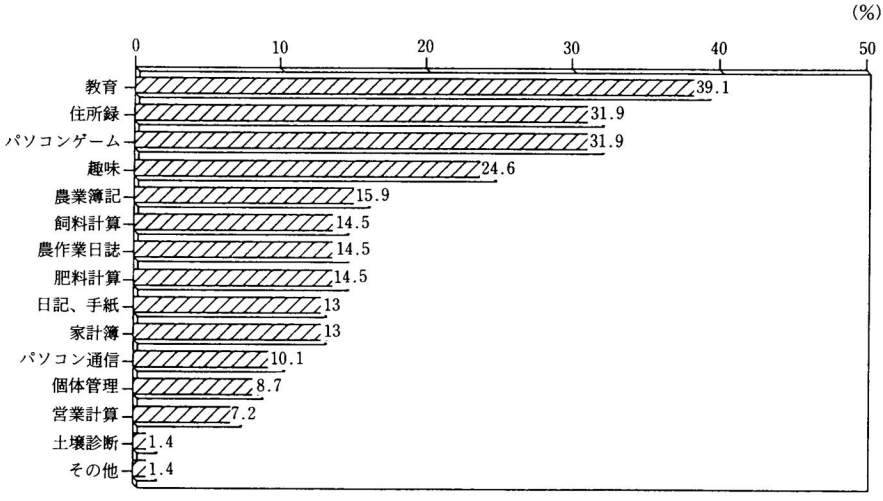


図5－9は，全体としての現在の使い道を多い順に並べたものである。農家経営に直結した項目は相対的に少なく下位に集中している。

また，今後農家経営における情報化の核となるであろうパソコン通信の利用は10.1％に留まった。しかし，すべての経営形態を通して「教育」の利用率が高いことから，次世代におけるパソコン利用に大きな期待が予想される。

2）ワープロ・パソコンの今後の使い道

ハードウェア面の準備がある程度整っているワープロ・パソコンの保有者にとって，「今後の使い道」とはごく近い将来ということであろう。

表5－8が今後の使い道として考えられていることである。稲作複合農家ではすべての項目に他と比較して高い数値で積極的姿勢が見られた。対照的に果樹農家では，全体的に各項目に対して低い数値が示されたが，これはすでにパソコンの有効利用が実現されている結果と思われる。

図5－10は，今後の使い道にあげられた項目を全体として多い順に並べたものである。

「家計簿」が1位(39.1％)となり，農家の主婦がパソコンを使い家庭経営をより効率化しようと考えていることが明らかとなった。また，2位となった「パソコン通信」(29％)は，現在はまだ低い利用率であるが，多くの人が着目している点があらわれている。

表5-8　ワープロ・パソコンの今後の使い道　(人)

	経営形態								計	
	稲作				酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)
農業簿記	6	30.0	5	29.4	3	14.3	0	0.0	14	20.3
家計簿	7	35.0	7	41.2	9	42.9	4	36.4	27	39.1
農作業日誌	5	25.0	6	35.3	5	23.8	1	9.1	17	24.6
住所録	2	100	6	35.3	3	14.3	1	9.1	12	17.4
肥料計算	2	10.0	6	35.3	1	4.8	1	9.1	10	14.5
日記・手紙	4	20.0	8	47.1	1	4.8	3	27.3	16	23.2
飼料計算	1	5.0	4	23.5	3	14.3	1	9.1	9	13.0
教育	5	25.0	5	29.4	4	19.0	1	9.1	15	21.7
個体(牛など)管理	2	10.0	6	35.3	4	19.0	2	18.2	14	20.3
趣味	3	15.0	3	17.6	1	4.8	4	36.4	11	15.9
土壌診断	1	5.0	9	52.9	3	14.3	3	27.3	16	23.2
パソコンゲーム	0	0.0	4	23.5	1	4.8	1	9.1	6	8.7
パソコン通信 -情報交換	5	25.0	7	41.2	5	23.8	3	27.3	20	29.0
-気象データ	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
-その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
営業計算	2	10.0	6	35.3	2	9.5	2	18.2	12	17.4
その他	0	0.0	3	17.6	0	0.0	0	0.0	3	4.3
対象人数	32		34		31		21		118	

※複数回答

図5－10　ワープロ・パソコンの今後の使い道

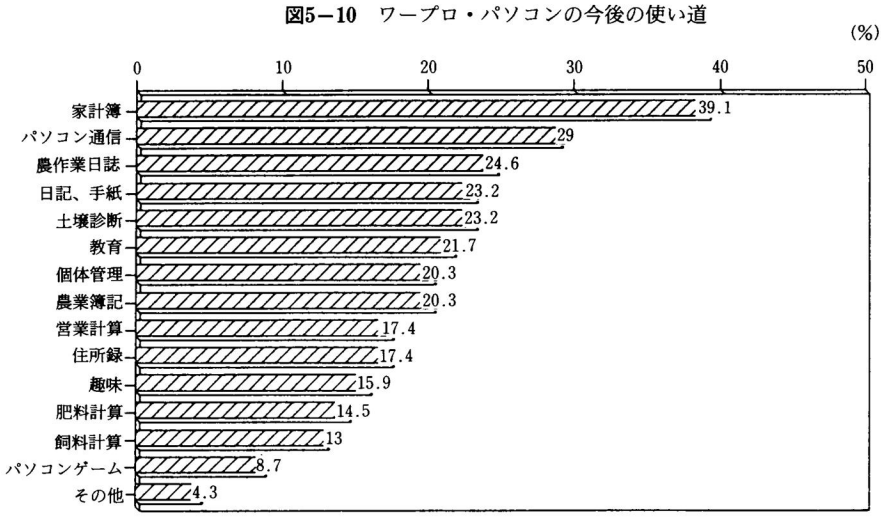
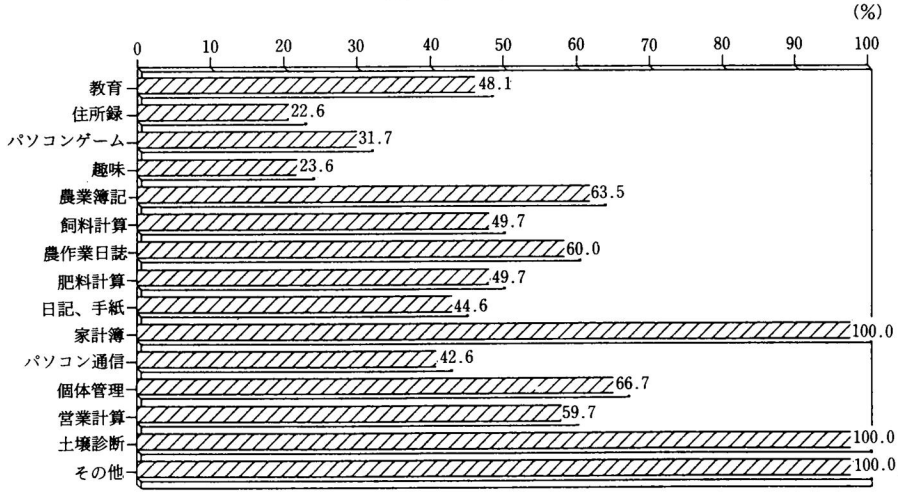


図5－11　現在の使い道のうち便利になった割合



3）ワープロ・パソコンを導入して便利になった項目

ワープロ・パソコンの導入によってにどのくらいの人が便利になったと感じているのであろうかを表5－9にまとめた。多くても10％台でどの項目にもさほど高い数値は見られなかった。

そこで，各々の項目について［現在の使い道にあげている人］の数を分母とした［便利になったとしている人」の割合は図5－11のようになった。100％となった項目の対象人数は，「家計簿」は9人，「土壌診断」2人，「その他」は1人である。現在の使い道では1位であった「教育」のうち，48.1％の人しかワープロ・パソコンを使うことによって便利になったと考えていない。しかし，「農業簿記」(63.5％)や「農作業日誌」(60.0％)，「個体管理」(66.7％)では使っている人のうち，半数以上は便利になったと考えていることがわかった。

4）ワープロ・パソコンの将来の使い道

全体の63.1％の人がワープロ，パソコンのどちらもまだ保有していない。ワープロ・パソコンを持っていない

表 5-9　ワープロ・パソコンを使って便利になった項目　(人)

	経営形態								計	
	稲作				酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)
農業簿記	2	10.0	3	17.6	0	0.0	2	18.2	7	10.1
家計簿	2	10.0	4	23.5	1	4.8	2	18.2	9	13.0
農作業日誌	1	5.0	3	17.6	1	4.8	1	9.1	6	8.7
住所録	2	10.0	1	5.9	1	4.8	1	9.1	5	7.2
肥料計算	1	5.0	3	17.6	0	0.0	1	9.1	5	7.2
日記・手紙	1	5.0	1	5.9	1	4.8	1	9.1	4	5.8
飼料計算	2	10.0	2	11.8	2	9.5	1	9.1	7	10.1
教育	7	35.0	4	23.5	2	9.5	0	0.0	13	18.8
個体(牛など)管理	0	0.0	3	17.6	1	4.8	0	0.0	4	5.8
趣味	2	10.0	2	11.8	0	0.0	0	0.0	4	5.8
土壌診断	0	0.0	1	5.9	1	4.8	0	0.0	2	2.9
パソコンゲーム	2	10.0	4	23.5	1	4.8	0	0.0	7	10.1
パソコン通信-情報交換	1	5.0	1	5.9	1	4.8	0	0.0	3	4.3
-気象データ	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
-その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
営業計算	0	0.0	2	11.8	1	4.8	0	0.0	3	4.3
その他	0	0.0	0	0.0	1	4.8	0	0.0	1	1.4
対象人数	32		34		31		21		118	

※複数回答

表 5-10　ワープロ・パソコンの将来の使い道　(人)

	経営形態								計	
	稲作				酪農		果樹			
	専業	(%)	複合	(%)		(%)		(%)		(%)
農業簿記	13	40.6	13	38.2	10	32.3	7	33.3	43	36.4
家計簿	16	50.0	20	58.8	15	48.4	14	66.7	65	55.1
農作業日誌	14	43.8	20	58.8	14	45.2	9	42.9	57	48.3
住所録	11	34.4	16	47.1	9	29.0	8	38.1	44	37.3
肥料計算	9	28.1	11	32.4	2	6.5	6	28.6	28	23.7
日記・手紙	8	25.0	13	38.2	4	12.9	8	38.1	33	28.0
飼料計算	10	31.3	14	41.2	19	61.3	9	42.9	52	44.1
教育	13	40.6	27	79.4	22	71.0	14	66.7	76	64.4
個体(牛など)管理	9	28.1	20	58.8	14	45.2	4	19.0	47	39.8
趣味	11	34.4	11	32.4	11	35.5	5	23.8	38	32.2
土壌診断	3	9.4	10	29.4	3	9.7	2	9.5	18	15.3
パソコンゲーム	9	28.1	14	41.2	6	19.4	5	23.8	34	28.8
パソコン通信-情報交換	11	34.4	18	52.9	15	48.4	8	38.1	52	44.1
-気象データ	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
-その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
営業計算	6	18.8	5	14.7	5	16.1	2	9.5	18	15.3
その他	2	6.3	2	5.9	0	0.0	0	0.0	4	3.4
対象人数	32		34		31		21		118	

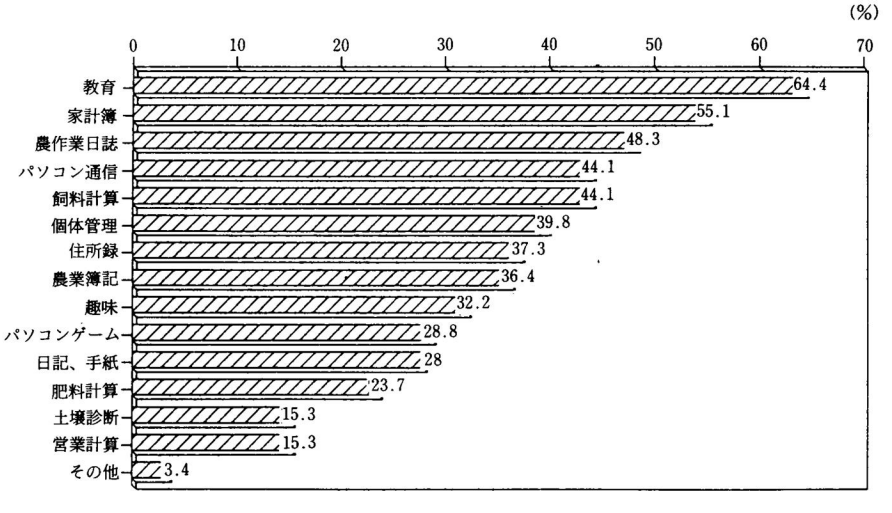
※複数回答

人は将来どのようなことに情報機器を活用させたいと考えているであろうを表5－10にまとめた。

対象となる人数は118名であるが，全項目合わせると609件の回答数となり，一人あたり5.2項目を選んでいるという結果から，パソコン等の最新情報機器に対する期待の大きさが表われている。中でも，稲作専業農家では「飼料計算」を除いてすべての項目で全体の平均より高い数値であった。

図5－12は，将来の使い道を全体として多い順に並べたものである。1，2位は「教育」(64.4％)，「家計簿」(55.1％)と家庭生活に役立つ項目であった。また，パソコン通信も4位44.1％と期待されている。

図5－12　ワープロ・パソコンの将来の使い道



今回の調査により，韓国の農家生活における情報機器の充実ぶりが明らかとなった。テレビ，ラジオ，新聞，電話はもちろんの事，先進的な情報機器であるパソコンは全国平均の普及率より非常に高い。パソコンは，とりわけ教育用に広く用いられており，次世代におけるコンピュータの利用・活用に大きな期待が持てる。現状では，農業簿記，農作業日誌といった農家経営面へのパソコン利用度がまだ低く，将来は，パソコン利用を通して主婦も積極的にその方面への参画が可能となろう。

また，関係官庁によるコンピュータ教育が充実すれば，農家生活の情報化がなお進展することは，農家主婦のコンピュータなど情報機器に対する期待の大きさから明らかである。

IV　調査結果のまとめ

「農家生活の質的向上に関する日韓共同研究」の一環として，経営形態別農家の30才代～40才代の主婦260人を対象として「生活経営からみた農家生活の実態」－韓国調査に関するアンケート調査を実施した。

調査の内容は，「生活の質の豊かさ」について，農家生活経営を視点とした農業経営と農家主婦のかかわり，家事運営と家計管理，余暇生活活動，生活の情報化，を中心に実施した。ここでは，調査結果の主な要因について考察を試みることとする。

なお，農業やその経営，農村社会，家族や家族生活等は，その国の歴史，宗教，社会制度，文化，国家の政策等あらゆる事項によって形成されているものであり，単なる調査結果を基に軽々しい判断は出来ない。従って以下の考察は，本研究の第1報北海道調査との比較が可能な範囲について述べることとする。

1.　主婦が大きく支える韓国(調査対象地域)農業

農業経営と主婦との関連について，第1にあげられる点は，生産労働力の分担状況における主婦労働の実態である。全体平均では78.1％の主婦が「夫と共に基幹労働」に従事しており，北海道の92.2％と比較して14.1ポイント低いものの，調査対象地域（以下韓国と言う）の農業は主婦が大きな役割を担っている。

更に従事する農作業や経営参画の仕事の内容は多岐に亘っている。その結果，時間的にみた主婦担当の家事作業は農作業の繁閑に大きく影響されている。

以上の傾向は北海道農家主婦の場合と同様であった。

2.　農家主婦の役割評価

対象の90％が何らかの形で報酬を受け取っている。また86.5％が自分名義の預金通帳をもっている。

従って形式上は主婦労働の経済評価はみられたが，金額をはじめ，使用上の自由配慮の程度等については，本調査では確認していない。

3.　まだ低い日常生活の満足度

家庭生活の満足度，地域生活環境の満足度共に，不満と満足の中間となった。

家庭生活での満足度で平均点より低い項目は，家族揃っての食事，夫婦の会話，及び耐久消費財の所有，であり，地域生活環境については，保健所・病院については満足の評価は得られなかったが，他は満足の評価であった。

第1報による北海道の結果では地域生活環境の満足度は，各経営形態共，不満の域を出なかった。

4.　農作業と家事労働の効率化対策への意向

農作業の効率化対策のベスト3は，①機械化をすすめる80.7％　②生産の組織化・共同化49.7％　③作業の計画化44.4％であった。

北海道調査においては，①労働配分を考えた作業の体系化　②農作業の計画化　③酪農におけるヘルパー制の利用となった。

また家事労働力については，①家族の協力による家事分担71.1％　②主婦の農作業を減らす55.1％　③家族の身の回りのことは自分でする54.5％であり，北海道の場合と同一の項目があげられ，主婦の農作業が及ぼす家事労働への影響が大きいことがうかがえる。

家事労働の効率化対策としては，主婦の農作業の減量対策と共に家族各々の生活技術の自立や家事分担の協力体制，家事作業の計画化など，生活経営の充実化が求められる結果であった。このことは北海道の場合と同様である。

5.　家事運営と農家生活

大量生産・大量販売をはじめ家事の社会化・サービス化の進展する中で，北海道の農家に比較すると，食生活を中心とする家庭外サービスの利用がみられるが，農協・銀行等の振替やキャッシュカードの利用率は低い。

また，自家用加工品や自給現物の自家利用についても，北海道に比較して利用状況が若干低かった。

次に家計管理については，家計簿の記帳割合は高いが家計管理上の問題点として，韓国・北海道共に子供の教育費や交際費の負担があげられ，また韓国調査では特に収入の不規則，借金・負債の負担が問題点となっている。

主婦の家事担当状況については，買物の担当は少なく，その他の家事担当内容については北海道より10％近く上回っていた。特に料理の担当率は高かった。

今後身につけたいこととしては，両調査とも家族の健康管理の方法があげられたが，韓国では子供のしつけや教育方法についても関心が高い。

6. 余暇生活活動

余暇のすごし方のベスト5をみると，①休憩(ごろ寝) 42.8％ ②テレビ14.4％ ③新聞・雑誌12.3％ ④読書7％ ⑤家族との会話・団欒6.4％の順となり，休養中心の静的型の余暇といえよう。これは北海道と同様の傾向であった。今後，趣味や文化，スポーツ等参加型の余暇活動が期待される。

次に主婦達の休日についての意向は，全体の29.4％は週休の確保は難しいと考えているが，何らかのかたちで週1日はとるべきの意向を示した。

その割合は41.2％となっている。これを是非とも2日ほしい19.3％と合わせると60.5％の主婦が週休確保に大きな願いをもっている。この実態は北海道も同様である。

余暇活動を阻害する要因をみると，平日の自由がない，場所や施設・設備がない，お金がかかる，続いて，家事・育児に時間がかかる，休みが少ない，情報がない，等が上位にのぼっており，農業経営のあり方や，主婦が自由に余暇を楽しみ積極的に活用できる地域生活環境の整備が求められる。

7. 生活の情報化

情報機器全般にわたって高い普及率が示されたが，とりわけパソコンの普及率は全国平均より非常に高いことが明らかとなった。

ワープロ・パソコンの使い道として，北海道では「農業簿記」が1位であったが，韓国では「教育」に高い数字が示され，次世代における韓国の農家経営，農家生活へのパソコンの有効利用が期待されるのではなかろうか。

将来持ちたい情報媒体・情報関連機器は，両国とも「携帯電話」であったが，北海道が31.7％であったのに対し，韓国では49.2％とほぼ半数が希望していることがわかった。

両国とも，今後の農家生活における情報化の鍵となるのは，情報の収集・発信が情報機器を介して自在に出来るようになるための充分な教育機会を持つことであろう。

要　約

「農家生活の質的向上に関する研究」－日韓共同研究－の一環として，経営形態別農家の30才代～40才代主婦260人を対象に「生活経営からみた農家生活の実態」韓国調査を実施した。

調査内容は，農業経営と主婦のかかわり，家事運営と家計管理，余暇生活活動，生活の情報化，を中心にアンケート調査を行なった。

調査結果については，①主婦が大きく支える韓国農業 ②農作業の影響を受ける家事作業時間 ③農業に果たす女性の役割と評価 ④家庭生活・地域生活の満足度 ⑤農作業・家事作業の効率化対策 ⑥自由時間，休日の確保の困難性 ⑦家計管理上の問題点と今後の意向 ⑧ワープロ・パソコン利用への高い意欲と今後の情報化に役立つ充分な教育機会の必要性。

以上の諸点について実態及び課題を把握した。

謝　辞

本研究の実施にあたり，多大の協力を頂いた韓国国立安城産業大学校 崔 一信 助教授，同夫人 金 愛賢 女史，北海学園大学経済学部 加藤 光一 教授，同大学院 大平すみ子 氏・金 大成 氏 に心からの御礼を申し上げる。

参考文献・引用資料

1) 安城郡地域農業開発センター資料　安城郡農村指導所　p.3～4
2) 加藤　光一　「東北庄内地方の農家・韓国全羅北道の農家」—現代家族経営危機の日韓比較—日本村落研究会編　1993年11月　農山漁村文化協会
3) 世界農業センサス1990 (AGRICULTURAL CENSOS 4.KYONGIDO)
4) 農山漁家婦人・高齢者の農林水産業・生活に関する基本調査－平成5年版－平成6年　農村生活総合研究センター
5) 日本人の余暇と旅行　総理府広報室編　平成元年
6) 李　英柱　韓国の農業・農村情報化の現況「農業情報年鑑」1996年 p.206～209　農山漁村文化協会

Summary

The purpose of this paper is to analyze famr family life in Korea from the point of view of life management. We obtained information on how women are engaged in farming, housework and fimancial management, their spare time activities, and how they get information for living, by means of questionnaires sent out to 260 women aged between 30 to 49 years old. The results are as follows:

1) Farming in Korea is supported by women.
2) Housework time is influenced by farming.
3) Women play an inportant part in farming and its evaluation is important.
4) They are not always satisfied with their life and life environment.
5) They want to make their housework and farming more efficient.
6) It is difficult for women to get holiday and free time.
7) There are some problems concerning farm househild economy.
8) Women are very interested in using computers and wordprocessers and education towards gaining greater access to information is necessary.